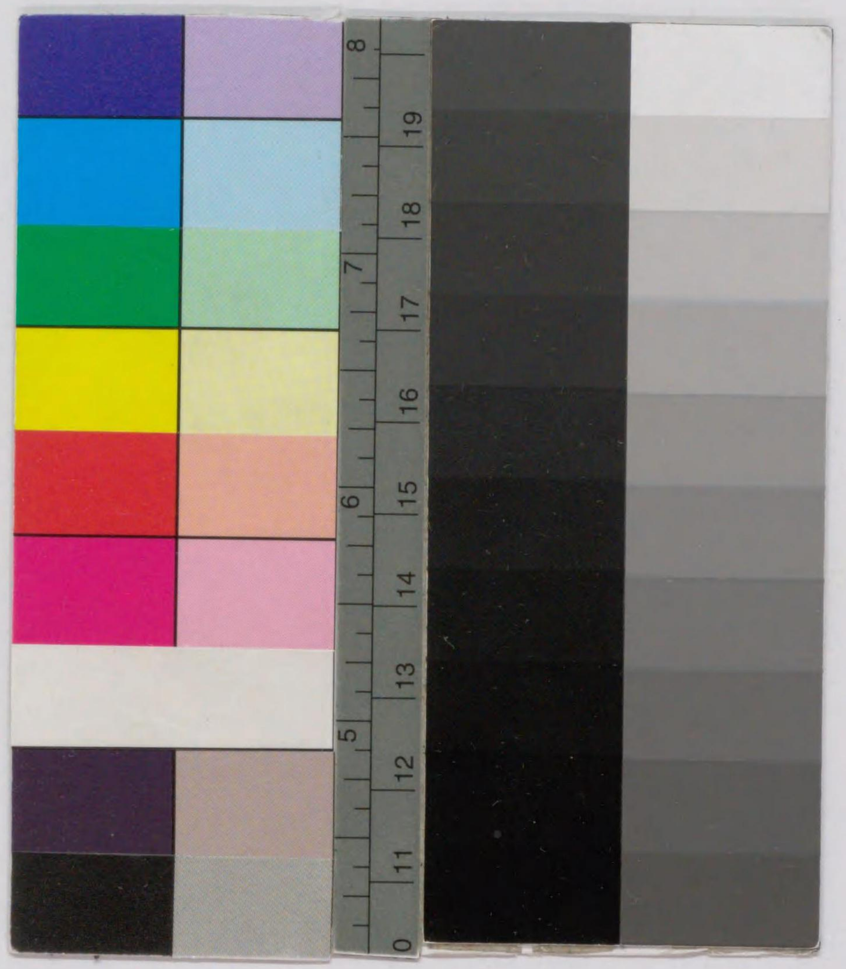
571
571-196
1200501518503
96



36.4.28

22333

帝國圖書館藏

園藝趣味普及會編

趣味と實益

さつきの作り方

東京 春江堂版

昭和三・二・一四 帝圖

宅安（3）　鶴白（2）　風松（1）

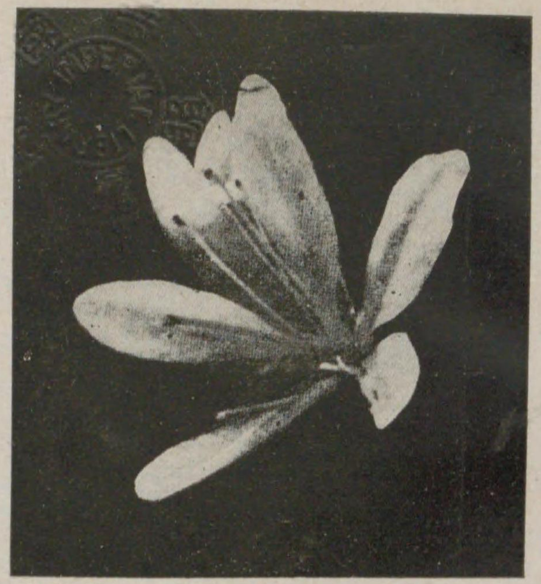
名木松波

五十鈴川

雪白地美紫絞底白一重最大輪

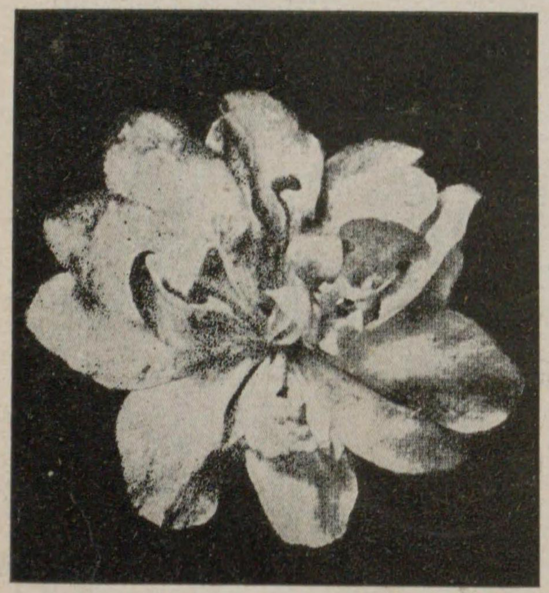
白鶴

雪白二重奬咲大輪



白澄

白青五裂咲大輪花形珍奇無比



麟鳳

上朱紅底白車咲辨数多旗辨出大輪

571-196

寶華花名

巻頭に

盆栽などをいぢくりまはして居るのは、老人くさい、又老人の閑つぶしだなどゝいはれたものでありますが、今日ではそんなことをいふ者は無く、盆栽を玩賞するのは、人間の趣味性を向上せしめ、又趣味性の豊富な人であるといはれるやうになりました。

實際に花に親しんで、これを栽培し觀賞する人は、如何にも心やさしい奥床しい人でありまして、斯ういふ人に接して居りますと、如何にも自分の品性の高まるやうな心がします。

近來、古來より花卉の王であるところの、さつきが非常に流行して來まして、都鄙至るところに、栽培され、品種の改良、新花

の作出などを試みられて居ります。

併し其作り方を見ますと、どうも誤つて居る人も多いのでありますから、著者は多年の實驗と學理とに基いて、さつきの本統の作り方を說明し、世のさつき熱愛家の參考に供し、又、さつき栽培の初心家の手引にしやうと試みたのが、即ち本書であります。

本書が幸ひに、世のさつき熱愛家を益し、初心者の指導とならば、著者の希望は達せられたのでありまます。

本書を著はすにつき、前橋市のさつき栽培家淺川英一氏、篠原富川兩氏が多大なる便益を與へられたるを感謝します。

著　者

目　次

さつきを作る趣味
さつきの流行……一
　趣味と道樂——盆栽の趣味
さつきの培養……五
　流行する花——さつきはどうか——新花を作出す
手輕に栽培出來るさつき……一〇
　さつき栽培——趣味性向上の花——實益副業の花

さつきの歴史

さつきは何處の花か……一八
日本純粋の花——自然生育の原種——原種と變種

さつきの現在の標準

近年流行の原因……二八
つゝじの培養——さつき展覽會——現在の花種——
——標準優秀花
【(一)花形の標準、(二)色彩の標準、(三)花瓣の標準、(四)葉形の標準、(五)强弱の標準】

盆栽的自然美……四〇

石南科躑躅屬

つゝじにさつきの區別……四三
躑躅——躑躅の樹と花

躑躅のいろ〳〵

つゝじの種類……四九
霧島つゝじ——温泉つゝじ——琉球つゝじ——山つゝじ——
——蓮華つゝじ——米つゝじ——黒船つゝじ——藐つゝじ——
——滿天皇つゝじ——洋種つゝじ

さつきの花

多種多様の花形……五九
花輪の大小の特徴……六〇
花形の特徴……六一
　單瓣咲——二重咲——八重咲——千重咲——朝顔咲——
　車輪咲——亂曲咲——花笠咲——袴咲——采配——蘆咲
花瓣の形狀の特徴……七一
　本葩——蘆咲——袴葩
花色の特徴……七五
　無地花——染分色——覆輪花——絞り花——噴上絞——

噴込絞——鹿の子絞——更紗絞——飛び入絞
さつきの古い種類……八三
變り花と變り葉……八九
さつきの變種作出……八九
底白覆輪の作り方……九〇
絞り咲きの作り方……九一
采咲きの作り方……九二
絞り咲種に覆輪花の咲いた時……九三
絞り咲種に赤無地花の咲いた時……九四
赤葉と青葉……九五

さつきのいろ〳〵

さつきの種類……九六
單彩花……九七
采咲、袴咲……九八
四季咲き……一〇〇
底白咲き……一〇一
朝顔咲き……一〇三
覆輪咲き……一〇四
重ね咲き……一〇五
絞り咲き……一〇七

新花絞咲き……一一三

さつきの培養法

さつきの養土……一一九
　養土の成分——鹿沼土——苔類の混和
移植……一二五
　植替へ時——植かへの目的——粘質土
施肥……一二九
　肥料の種類——肥料の施し方——施肥の時期——温室培養
給水……一三四
　灌水の仕方——冬季の灌水——樹齢と灌水

樹の場所……一四〇
さつきの性質——日光の調節
挿芽法……一四四
繁植——挿芽の時季——挿芽と移植——挿芽と肥料——
挿芽の伸長
枝の作り方……一五二
木振り枝振り——樹勢と樹容
さつきの變り花の作り方
面白い新花の値段……一五七
變り花の作り方……一五八

遺傳の法則とは……一五九
枝變りで新花を作る方法……一六二
普通の實生で作る法……一六五
交配で新花を作る方法……一六七
交配する親木の選び方……一七一
交配の仕方……一七三
さつき種子の蒔き方……一七六
開芽後の手入……一七九
害蟲驅除法
さつきの花……一八六

さつきの作り方

目次

鉢の色——若木と老木——鉢の形狀——鉢の深淺——素燒の鉢

新花の作り方……一九

新花に就いて

溫室に於ける栽培……一九三

溫室の構造——溫室の濕度——灌水と肥料——

種々の注意……一九六

美花を得るには

目次（終り）

趣味と實益　さつきの作り方

さつきを作る趣味

さつきの流行

趣味と道樂

俗にいふ道樂に二通りの意味があるやうであります。即ち第一は興味の道樂、一は趣味の道樂がそれであります。併し前者は單に『道樂』、後者は『趣味』といつて區別するのが普通であるやうでありますから、此處でもそれに倣ふことにします。

趣味といひ、道樂といひ、一見甚だ解し易いやうで、實は眞に難澁であ

ります。

或者は、書畵道樂、圍碁道樂、玉突き、酒道樂、寫眞道樂、女道樂、食道樂、盆栽道樂といふやうに、皆一樣に、道樂といふ中に入れて解してゐまつて居りますが、趣味と道樂とは決して混同すべきでは無くして、根本から違つて居なければならぬのであります。

『道樂』はたゞ樂しむ方、『趣味』は慰むる方、從つて『道樂』は其の性質の、惡醜を問はないが、『趣味』には必らず、『美』の觀念が伴ひ、更に『善』の意味が加はつて居るやうでありまして『道樂』と『趣味』とは程度を異にして居ります。

『道樂』に於ては、盲目滅法に溺れてしまふことになり、『趣味』に於ては淺く淡白に味はふといふ程の事があります。此の方は『嗜好』などと解す

るのが、適當でありませう。

盆栽の趣味

たとへば學問に趣味を持つ、學問を嗜好する。斯樣な意味に於て、不品行なる行爲を少くして、同時に高潔なる人格を養ふことが出來ます。盆栽に趣味を持つといふことも、同樣であります。これを建築でいへば、輪奐の美とか、氣品が高いとか、擔、柱の調和、屋根、窓の均衡（つりあひ配色）これを味はひ賞美するなど即ち趣味の高尙な人といはねばなりません、

盆栽に就いていへば、一鉢の草花、一盆の花卉を賞する人は、如何にも氣品があつて、人格が高潔で、美的觀念に富んだ人といふことが窺はれます。

ところが、盆栽や鉢植などを賞玩するのは、老人の閑つぶしや、閑人

の手持無沙汰をまぎらす業であるといはれましたのは、昔の事であつて、今日では前にも述べましたやうに、高尚な趣味のある人、人格の奥床かしい人、氣品の高い人として、誠に尊敬に價ひいたします。

盆栽に趣味を持つて居る人が、盆栽を玩びますのは、近來非常に多くなつて來つゝありまして、都會生活をする人は勿論、地方の人々でも、盆栽を玩ぶやうになりましたのは、世人の趣味が高尚になりつゝある證據であると、喜ばしい次第に思つて居ります。

精神勞働をする人、筋肉勞働をする人、それらの人々が、一日の勞苦を終つて樂しい家庭に歸つて來て、緣端の盆栽に親しみ、又早天すが〳〵しい盆栽の幹や枝や葉や花を眺めるのは、自然味を味ふといふ上に於ては、如何にも崇高な精神のあこがれであります。

で、近來は盆栽を愛玩しますのは、決して老人や閑人ばかりで無しに、老幼男女、學者も、勞働者も、小學生も、中學生も、女學生も、商人も、農業家も、銀行員も、會社員も、うになつて來ました。これは物質文明の進歩せる現代のせいこましい生活の一面に、裕たりとした精神上の慰めを得やうとする現はれであらねばなりません。

殊に最近に於ては、盆栽物としてさつきが頗る勢ひで、流行して來て居ります。

さつきの栽培

流行する花

ところで、鉢植でありましても、すべて花には、流行、不流行があるものであります。亦盆栽でありましても、年青の如きも、それは花の咲く植物ではありませんが、一頃非常に流行いたしました。蘭の如きも、矢張り或る一部の人士の間に流行したのでした。撫子の如きも、朝顔の如きも、流行、不流行がありまして、花の形や色、葉の形や斑點などの變化に依つて、あれがよい、これがよいといふ譯で、好事家の間に賞玩されますのは、常に見受くるところであります。これは即ち人間の性質として、常に目先きが變つて行く事を好む、其の習癖を巧みに囚へて行つて、遺傳の方則などに依り、變種、新種を作り出すところの、流行物作りの植木屋の商賣上手な手段に釣られて、流行、不流行といふ事が生じて來るのであります。

萬年青や、蘭や、朝顔や、常夏や、それらの物ばかりで無く、すべての鉢植、盆栽が斯ういうした流行物作りの植木屋が、常に目先きの變つた物、新奇な物、變つた物をどうしたならば作ることが出來るか、どうしたならば、人氣をそゝる事が出來るかと考へて居りますので、此術策に依つて流行した物は、決して永く續いて居る筈のものでは無く、流行するのも早いが、廢るのも早いのであります。これは如何にも當然の事であらうと思ひます。

さつきはどうか

然るにさつきは、現今我國の都鄙を問はず、男女老幼の區別無く、階級の差別無しに、賞玩され栽培されて居つて、花卉界第一の人氣となつて居りますが、これは果して流行物作りの植木屋の人爲的術策に依つたものでせうか、どうでせう。

さつきが斯ういふ流行を見るに至りましたのは、決して人氣煽りの植木屋の人爲的術策に依るものでは無いのであります。

一體此の花は、我國に於ては、餘程古くから盆栽、鉢植として賞玩もされ、栽培もされたのでありまして、其事は古い書物にも書いてありまして、古い昔は、鉢植花卉の王とまで稱せられて居る程であります。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、加藤清正、大久保彦左衛門などは、殊の外に此のさつきを愛玩し、自分の居室に飾り、花壇を作つて陳列して賞したといふ事が、古い書物に書いてあります。

又、豊臣秀吉が、『年古きつゝじさつきの花美くしきを、主上に献じ』云々と、いふことも、古い書物に見えて居ります。

するとさつきが、盆栽、鉢植の花卉として我國に於て賞玩されましたのは、殆んど四百年以前からで、今日まで花卉好き、植木好きに愛賞されて來た譯であります。

斯うした古い歴史を持つて居るさつきが、なぜ近頃まで世人の熱愛の心から離れて居つたかと申しますと、これもつまりは、流行物作りの植木屋が、新奇を好む人心に投じやう爲めに、萬年青とか、蘭とか、朝顔とか、常夏とかいつたやうな物の變り種を作つて、植木好き、盆栽好き、花卉好きの心を、さつき熱愛から奪つて行つた術策に外ならないのであります。

人爲的術策は何時かは破れてしまひます。

人爲的の流行は何時かは、人に厭かれてしまひます。

術策が破れ、流行が厭かれて來ますと、茲に、さつきが再び、古くから愛玩されて居つた其の熱を呼び返して、現今の如く非常な勢ひを以て、都

鄙至る隈無きまでに普及しつゝあるのであります。

新花の作出　殊にさつきは、改良しやうと思へば、幾らでも改良することが出來、新花を作り出さうと思へば、幾らでも、新らしい珍らしい花が作り出せ、變り花を作らうと思へば、珍花奇花を意の儘に作ることが出來るといふ、特徴を持つた花卉でありますから、一時全く忘れられてしまつたさつきも、大正、昭和の御代にかけて、花卉界第一の人氣を盛り返して來ましたのであります。

斯ういふ次第でありますから、さつきは他の花卉類と其の選を異にし、唯單に流行して居る花と見るのは、大なる誤りであります。

手輕に栽培出來るさつき

さつき栽培　此のさつきは三尺の庭であつても、又玄關の片隅であつても肱掛窓の小棚でも、至つて容易に、手輕に栽培する事が出來ます。

尤も單りさつきばかりで無く、斯ういふやうに容易に、手輕に栽培の出來ます花卉は、他にも澤山あります。しかしそれらは何れも、草本であつて、花が咲き終つて實を結べば、種子を取つて置くとか、或は一球の根を保存して置くとかして、そして翌年に新たに培はねばならぬのであります。

然るに此のさつきは、別に種子を取つて置く必要はありません。年々其の樹幹は太つて行き、枝は繁つて行つて、年一年と木は成長して行きます。これが即ちさつき栽培の樂みのある所であります。ですから別に大した手

數も無く煩ひも無いのであります。

樹幹が太り、枝が繁つて行きますから、從つて其の價格も、年と共に高まつて行く譯でありまして、一方趣味として栽培して居て、一方副業としても、即ち實益にもなるといふ、一擧兩得とは斯ういふ事をいふのであります。それに他の日本在來の草花や、西洋草花などに比して、遙かに氣品があり、其の花も、千姿萬態で、新種類を作らうと思へば、作る事も出來、又他の花卉に比して、枯れ難い性質を持つて居りますから、今日の如く、廣く普及し謳歌せられて居るのであります。

趣味性向上の花

現在鉢植や、盆栽になつて居ります、草花や、花樹は實に其の數に於て、幾百種に上つて居るか分りません。しかし乍ら、最高級の盆栽、即ち人間の趣味性に合ひ、然も趣味性を益々向

上さして行くところの花樹は、先づさつきを以て第一位として、指を屈せねばなりません。なぜなれば、松、楓、竹、梅、檜、其他普通在來の盆栽は、婦女子や少年や幼年者には、何の興味も無ければ、趣味をも感じません、概して花の咲かない、乃至花の咲いて居ない時の盆栽といふものは、婦女子や少年は何の感興をも惹かぬものであります。

ところがさつきは、春五六月に花が咲けば其の花の形、花の色の千差萬態なるを賞玩すべく、花散つてしまへば、幹が太く枝が繁つて居るさつきであれば、其の樹容のいふにいはれぬ美を賞玩し得るのであります。

故に一鉢のさつき、一本のさつきを常に栽培して置くことは、動もすれば婦女子、少年の趣味性が墮落せんとする今日の世の風潮に在つて、その墮落を防ぎ、人間本來の趣味性を向上せしむる上に於ても、さつきこそは

是非共家庭の花として、熱愛すべきであると信じます。

實益副業の花　栽培にも、繁殖にも、至極手輕であつて、容易である此の○○○さつきは、少しく其の栽培上の知識を得ますと、種木を年々其儘に太らせ、枝を繁らして行つた上に、年々多く苗を得ることが出來ます。

此の苗を栽培しますれば、相當の利益を得ることは、理の當然でありまして、世のさつき愛好者が、さつきを愛するといふ趣味から轉じて、遂に苗木栽培を爲し、副業的になつて行つて、利益を見るやうになるのは、世間多く見受くる所であります。

趣味がやがて副業となるといふのでを聞きますが、これは非難し、卑下する人の考へが間違つて居るのであります。

す。

一方に於て趣味を滿足させ、一方に於て副業として利益を得ることは、何で卑しいのでせう。斯うした一擧兩得の花樹こそ、現代生活をする我々の理想的のものといふべきであります。

一體日本人は、表面金錢に頗る淡白であるが如く裝つて居る弊があり、其の裏を窺へば、我利我慾を滿足させやうとして居る人が多いやうであります。趣味を滿足させ、そして一方に於て副業的にやることをば、卑しい事として非難する人は、表面金錢に淡白で裏面に於て金錢慾の旺盛な人であります。

著者の友人である東郷哲學博士は外國の家庭副業について斯ういふことをいつて居ります。

『バルガン半島のブルガリヤ地方の家庭に於ては、香水の原料となる薔薇の栽培をやつて居ります、少しでも空地があると、其處へたとへ一本の薔薇でも植ゑる。そして花の咲いたのを樂しんだ後に、これを香水製造工場の買ひ集めに來る者に賣つてやるのであります。これが此の地方の家庭副業となつて居ります。

日本でも花物を栽培して、花を樂しんだ後に花屋に賣つてやれば、結構副業の一つとなつて、多少なり收入を得る事が出來ます。都會の眞中に居住して、一寸の空地も無い人は致し方が無いが、都會でも場末とか、郊外に住んで、一坪なり二坪なり空地があつたならば、其處へさつきでも培養して、花を眺めて樂しみ、苗を仕立て希望者に賣つてやつたならば、立派に副業となり、趣味と實益とを兼ねたことになります』

と、いつて居ります。これは或る雜誌に書かれた一節でありますが、誠に玩味すべきであると信じます。

さつきの歴史

さつきは何處の花か

日本純粋の花

さつきは一體、何處の花でせうか。日本在來の觀賞植物の中で、日本人の手に依つて作り出されたのは、これ程多くあるでせうか。蘭の如きは、日本人の手で陶汰もされ、改良もされて今日あのやうに、種々の變種、新種が出來ましたが、此の原種は、支那から來たものであります。又梅の如きも、今日はあのやうに改良、陶汰されましたが、これも矢張り古く支那から渡來したものであります。又櫻は、日本の國華として、世界に冠たる花樹でありますが、米國や英國に輸出されて

これを改良陶汰して、變種、新種が作り出されます。蘭の如きも、矢張り米國、英國に輸出し、其の國で改良陶汰されて、新種、變種が作り出されて、これも矢張り日本に逆輸入されて來て居ります。ところが、此のさつきはどうでせうか。これも明治初年前から、外國に輸出されて、改良陶汰したものが、日本に逆輸入されて居りますが然し外國で改良陶汰したさつきは、さつき本來の本性を失ふこと無く、矢張り日本原種のさつき性を失つたものではありません。外國へ行つて改良陶汰されましたものは、霧島つゝじ、或は琉球つゝじであつて、其の種木を改良陶汰したものであります。

故に日本在來の原種であるところのさつきは、花樹中に於て、最も優れて居り、改良陶汰すべき點がありませんから、外國へ行つても日本在來の

よりは、改良も陶汰も出來ないのであります。

これ程に、日本のさつきは世界中の躑躅類中に於て、最も優れて居り、秀でゝ居るのであります。故にこれを改良し、陶汰しやうとするならば、どうしても日本人の手に依つて改良もし、陶汰もして、益々世界に誇つてやりたいのであります。

自然生育の原種

さつきの花の美事なことは、山野に自然に生育しましたのを取つて來て、庭や鉢などに植ゑて眺めましても、觀賞樹としては、確かに他の花木に優れて居りますから、これを鉢植ゑなどにして、賞玩しましたのは、餘程古い昔からであらうと思はれます。前にも一寸記しましたが、豊臣秀吉が、さつきを鉢植ゑとして、美事な花を咲かし、それを主上に献納した事が古い本にも書いてありますし、古い錦

繪などに依つて見ましても、鉢に植本を植ゑて書齋や床の間に飾り、又前栽の眺めとして居る事が描かれて居ります。又古い本を見ましても、鉢植ゑとして此のさつきを愛玩した事も立派に書いて居ります。彼の和漢三方圖會にも、躑躅を鉢植ゑとして、其の數鉢を朝鮮に輸出したことが、朝鮮の晋山世稿に載つて居る事を立派に記してあります。今茲にそれを摘錄して見ませう。

『大明年中（日本の長享年中）に日本から躑躅數鉢を得た、其の花は單葉であつて、花瓣は甚だ大輪で、然も色は柘榴のやうに紅であつて、疊萼があり、久しく衰へない。又紫にして千葉なるは、其研模毋と西施と帝に愛さるゝやうである。上これを嘉賞し、命じて上林園に下し、外人に秘して分ち植ゑた。能く得ることが無い。一は盆に植ゑ、一は地に植

ゑ、以て之を試みた。地に植ゑたものは凍死し、盆に植ゑたのは、恙なく、數年の間枝條方に盛んであつた。』

と、いふやうな意味のことが書いてあります。これは恐らくは、蹶蹏の園藝的史實の最も古いものであらうと思はれます。

此の記錄から考へて見ましても、蹶蹏が古くから盆栽、鉢植ゑ、其他園藝的に培養されたのは、決して疑ふことは出來ません。さつきは蹶蹏の一種と見られ、又蹶蹏と混同せられて居た事もありましたから、さつきも亦他の蹶蹏屬と一緒に古くから、園藝觀賞樹として栽培せられて居つたといふことも、うなづかれる譯であります。

原種と變種

一體變化性に富むところの植物は、これを自然生育のものを山野から採つて來て、人爲的に栽培しますと、瓣葉が、たとへば五瓣であつたのが七瓣となり、或は濃くなり、或は斑となり、七瓣が十瓣となり、花の色も或は薄くなり、或は濃くなり、或は斑となり、自然に生育したものと、變化して行くのが常であります。殊にそれは栽培の如何に依つて、原種と全く異つたものに變化し、園藝植物化してしまひます。

さつき蹶蹏が、我國の餘程古い昔からして、斯うした植物愛玩者の栽培に依つて、人爲的園藝植物化して、種々の種類が出來て居つたのは事實であつて、今園藝的專門書として最も古くから寫本として傳へられて居る水野元勝、松井賴毋著の『花壇綱目』に依ると、隨分多くの花名が記されてあります。此の書は寬文の初年から傳はつて居るのでありますから、今から凡そ二百五十年程も前の著述であります。

これはついじ異名百四十七種の花名が載せてあります。古い昔であつて

もこれに依ると随分多い数があつたのであります。

それからさつき躑躅の専門書として古くから貴ばれて居る本で、『錦繡枕』といふのがあります。これは元祿五年に、將軍家の御用植木師であつた、本郷村染井の伊藤伊兵衛といふものゝ著はしたものでありまして、此書は第一巻から第三巻迄は『つゝじ』の品類百七十五種を載せ、第四巻、第五巻にはさつき類百六十二種を掲げ、何れも圖入れで、花の色彩、花瓣、花品等を詳細に記してあります。これは現今でもつゝじ、さつき培養に取つて、非常に利益を與へる參考となつて居ります。

同書の序文に、

『さつき、つゝじの二種は、昔今年々增加して千變萬化することすべて三百餘品あり。』

と、記してあります。

又同書中に、

『凡そ春咲くを『つゝじ』といひ、初夏より咲くを『さつき』といふ。しかも品類甚だ多く、飛入り、咲分け、さらさしぼり、鹿の子、こしみの、千葉、萬葉などいろ〳〵わかちあり、其内大輪、小輪、或は五葉、六七葉の類あり、又其候に初中後あり。』

と、あります。

此の書に記してあるところに依つて見ましても、現在流行して居ります種類も、既に當時に出來て居たことを知るのであります。

元祿十一年に、貝原益軒といふ人の著はした花譜の中には、つゝじの栽培の事が、如何にも親切に記されてあります。

又文政七年青山の植木屋金太郎といふ者の著はした、『草木奇品家雅見』といふ本に、班入りのつゝじの圖が載つてあります。

又文政十二年水野逸齋といふ人の著はした『草木錦葉集』といふ本の中には、さつき、つゝじの葉變りや、班入りの品種が澤山圖入りとなつてあります。

此の文政十一二年頃には、つゝじ、さつきが鉢植の觀賞樹として、非常に流行いたしましたもので、其頃は葉變りや、班入りでなければ、人が喜ばなかつたのでありました。で、白、紫、黄等の班入りや、覆輪、砂子などの變り葉が出來、其他種々の變種も現はれて居る中に、名花や葉形の變種も現はれて居ります。

斯くつゝじ、さつきは、三百年以前から、熱愛されて來まして、文政頃

には一層盛んな流行となつて、品種の改良、變り種なども作られたのであります。

さつき以外の觀賞樹や、草花に人氣をそゝられて、遂に古い歴史のある、つゝじ、さつきが忘れられんとしたのは誠に遺憾のことであります。

併し近年に至つて、再び昔日の流行を盛り返して、日本在來の名花としてのつゝじ、さつきが、今日の隆盛を見るに至り、現今熱愛家に依つて、改良種、變種を作られつゝあるのは、誠に喜ばしい事であります。

これを以て見ましても、もと〳〵氣品のある花樹としてのさつきは、決して亡びる事がないといふことを證據立てゝ居るのであります。

さつきの現在の標準

近年流行の原因

ついじの培養

明治初年頃から、さつきを顧みるものが無くなつて、明治三十六七年の、即ち日露戦争前頃までは、あたら名花も、其の特徴を観賞せられない迄に虐遇せられて居たのであります。

たゞ僅かに東京府下の大久保の植木屋に、『大久保の躑躅』として名殘りを止め、日比谷公園の藤棚の邊に、紅、紫、白、黄の妍花を見せて居たゞけでありました。是等の躑躅は、何れも霧島つゝじの古木であつて、たゞ古木に美しい花が群り咲いて居るといふに止つて居て、さつきが有つところの花の特徴、氣品を賞する爲めに栽培するといふやうな事は絶えてなかつたのであります。

斯ういふ次第でありましたから、わづかに躑躅だけは妍花を、大久保や日比谷邊に見せて居まして、さつきについては、更に栽培せられませんかつたから、追々とさつきの花名などを知る古老も次第に世を去つて行つてあたら名花の花の名さへも知る者がなくなりつゝあつたのであります。

所が明治四十年前後に、東京及び埼玉の有志が相語つて、さつきの保護と研究の會が開かれ、此の會が動機となつて、追々とさつきは昔日の如く熱愛されるやうになつて來たのであります。此の會の有志達は、或は古書を漁り、古老に尋ねて、昔から殘されてあつた名花の花名を知り、又種類などを集めして、さつきの復活につとめた功績は實に大なるものであり

ます。

もと〳〵名花であるさつきは、明治初年以來、永らく埋もれては居りましたが、しかし時を得れば必ずや其の名花の妍を見せます。一度昔日に復活するや、さつきの觀賞熱は忽ち世に普及して行つて、全國的に名花さつきの姿を見せ、今や愈々益々盛んならんとして居るのであります。

明治四十三年頃には、東京及び埼玉の有志の間には、往昔より傳へられて居つた、絞り咲や、無地の二重咲、或は牡丹咲などが、愛好されて居つたのであります。

絞り咲では、金華山、松島、底白では谷間の雪、重ね咲では紅萬葉、變り咲では金采などが、さつき界の首領株となつて居たのでありました。今日のさつき界の進展から見ますならば、實に隔世の感に打たれざるを得な

いのであります。

今日では最早や、金華山、松島、谷間の雪、紅萬葉、金采では滿足しません。もつと〳〵新種、優秀種で無ければ、觀賞家のさつき趣味を滿足せしむることが出來ないのであります。

何とさつき界の近年の進歩、發展は驚くべきではありませんか。

著者は、茲に名花さつきの爲めに、萬歳を叫ばざるを得ません。

さつきが斯く急速の進歩發展をするに從つて、さつき栽培者、さつき觀賞家が、自己の栽培した新種や、變り種を一堂に陳列して、展覽會が、追々と開かれて來ました。こゝに又、さつきの讃美者が、都鄙共に非常な勢ひを以て普及し、昔から殘つて居る名花は勿論、新種、變り種をも競ふて觀賞するやうになつて來ました。

さつき展覽會

斯うなると、實生或は枝條變種等に依つて、新花が續々として現はれて來まして、大正十五年には、日比谷公園に於て、大々的に皐月大會が催ほされて、日本全國津々浦々からまで、自己の誇りとして居る名花が陳列され、非常なる盛況を呈したのでありました。

今日では、皐月品評會、皐月共進會、皐月陳列會、皐月交換會、皐月研究會、皐月觀賞會等種々の名稱を附した、さつき熱愛家の會が開かれ、都鄙共に、將來果して何れ程までに、盛んになるが、圖り知る事の出來ない程まで盛んになつて行きつゝあるのであります。

誠に喜ばしい事であります。

現在の花種

現在に於ては、さつきの花種は非常に多數になつて居ります凡そ六百種に及んで居るだらうと思ひます。ほんの少しの差異に依つて、花名を附しますならば、優に一千種以上にも達して居るのであります。

これ程に種類の多いさつきの中で、どういふ花を選んで栽培したらよいでせうか、又現今ではどういふ種類が優秀とされて居るかと申しますと、これが選擇には、人各々の好み、趣味もあり、即ち花の色彩、花の形、枝條等に對する好みもありますから、一概にこの種がよいと申す譯には行きませんが、しかし玆に注意しなければならないのは、他人の好みを眞似るとか、流行物作りの植木屋に煽られて、下らぬ流行を追ふなどは、實に馬鹿氣切つた事であります。

品種を選擇したり、名花を選ぶ場合には、自分の趣味に適した物を選んだ方がよろしいのでありまして、徒らに高價な品種や、名花を選ぶのは、

餘り賛成は出來ません。

然し乍ら自分の趣味に適した物を選擇するといつても、何かこゝに標準が無ければなりませんから、現在のさつき品評會等に於て、優秀なる名花として、推稱されて居りますものを左に參考として掲げます。

標準優秀花

標準優秀花として、さつき品評會に於て推移されて居ります のは、種々の條件が備つて居るのでありまして、今掲げやうとするのは、優秀花として標準となる條件であります。

一、花形の標準

花形は單瓣であつて、大輪であることであります。

重瓣は見た目には誠に美しく、又賑はしいものでありますが、しかし花の氣品といふものが缺けて居ります。

然るに單瓣は、如何にも淡白で、氣取りもせず、飾りもせず、徒らに見た目を喜ばせるといふ、卑しいところが無く、そしてしつかりとした力がこもつて居ります。ですから單瓣は僞らず飾らざる聖人の氣品を備へて、如何にも氣高い感じを與へます。そして大輪を望むには、どうしても單瓣で無ければなりません。

二、色彩の標準

色彩は變化に富んで、色澤があつて、そして上品であることであります。

地色が純白に拔けて居りまして、光澤に富んだ、潤ひがあつて、絞り、染分け、瓣變り、底白等多種多様に變化し、色彩は純紅色であるよりも

寧ろ紫系統のものが、上品であるとされて居ります。

玆に斷つて置かねばなりませんのは、必ずしも、色彩は紫系統に限つた譯では無くして、鮮かであつて、艶があれば、何色であつてもよろしいので、現今のさつき品評會の優秀花は、この標準に依つて選ばれたものであります。

三、花瓣の標準

花瓣には力のこもつて居る事であります。

一見したところ、花が如何にも弱々しくして、貧しいのは、第一に美の要素を缺いて居ります。

昔から殘つて居りますさつきは概して花の形や、色彩ばかりに重きを置いて、重瓣や、千葉や、萬葉や、變り咲きなどを珍重して居つて、花瓣の

力といふことは、全く無視して居つたのであります。

一花に瓣數の多いことを望めば、從つて一瓣の力は弱くなるのは、理の當然であります。

所が現在に於ては、此の花瓣の貧弱なのは賞美されず、花瓣の一枚、一枚が厚く、そして強い力に滿ちて、如何にも生氣發溌として居るもので無ければならぬといふことになつて居ります。

そして花瓣の力のその強さの餘りが、瓣葩に波を打たせるといふのが、最優秀品として、もてはやされて居るのであります。

一體花瓣に力のあるのは、見た目には如何にも、生々として快い感じを與へるものであります。

四、葉形の標準

葉形は如何にも美なる事であります。

一體觀賞樹としまして、其の葉形の美なることは、確に其の大切なる條件の一つであらねばなりません。

西洋の草花や、花樹は、葉の美的であるといふ、要件が閑却されて居ります。其の一例としまして、彼の菊であります。一度米國や英國に輸出せられて、花形、色彩等は種々に變化し、日本在來の菊よりも、遙かに美しいものが作られて居りますが、併し其の葉の美觀といふ點には、全く閑却せられてしまつて、西洋から逆輸入された菊の葉形は、實に美的要素に缺けて居ります。

さつきは躑躅屬中、其の葉形、枝條共に、琉球つゝじや、霧島つゝじの遠く及ぶところでは無く、眞に躑躅屬中第一位の葉形、枝條を持つて居るものであります。

さつきは花を觀賞すると共に、葉形、枝條をも、觀賞するものでありますから、葉形、枝條、樹容がしつきりと引き締つたものが優秀であるとされて居ります。

五、強弱の標準

これは今更いふまでも無く、強健であることが、標準となつて居ります。

寒暑にもよく堪へて、そして生育の旺盛な性質を備へて居る事が大切であります。

樹性の虚弱なさつきは、栽培にも容易でありませんから、どうしても強健であらねばなりません。

盆栽的自然美

以上に掲げましたのは、現今のさつき界に於ける優秀花としての標準であります。即ち花形は單瓣である事、色彩は上品で鮮麗であること。花瓣に力あること。葉形の美的なること。樹性が強健であること。此の五ケ條を兼ね備へたものであれば、確かに優秀花として、さつき熱愛家の賞讃を博することは疑ひありません。若し新花を品評會などに出品しやうとならば、此の標準に依つて栽培せられましたならば、優秀花としての譽れを得られます。

それから又、さつきは、花を觀賞すると共に、其の樹容も、盆栽的自然美を備へたものを觀賞いたすのでありまして、花無くとも、四時其の樹容を觀賞する迄に、さつき熱愛の程が進歩して來て居ります。

是等の樹容觀賞家は、往昔より傳はつた古木の樹姿の面白いのを望んで、一本を手に入れるに、千金を投じて惜まぬといふ風であります。所で是等の人々の間に於ては古木松波を最も熱愛され、最高價のものを出して居ります。故にさつきの古木といへば、此の松波を最上位に置いて居る程であります。

兎に角さつきは、現在日本に於ては、全般に普及して行つて、どんな田舎に行つても、さつきの盆栽の一鉢を見ないことがないまでに至つて居ります。

尚ほ今後は、根強い普及力を伸ばして行つて、盆栽といへば、さつきといふ迄の勢力を得るに至るであらうと思はれます。否な何れの家庭に於ても、一鉢のさつきの盆栽がないといふことのないまでに、立ち至るであらうと確信します。

さつき普及の前途は、果して何處まで發展して行くか、今のところ見當がつかぬ程に勢力が盛んであります。

石南科躑躅屬

躑躅とさつきの區別

躑躅、躑躅　さつきは植物學上何に屬するかといひますと、石南科の躑躅屬であります。我國に見るところの躑躅に屬するものは三十種程もあります。

この三十種程を總稱して、俗に『つゝじ』といつて居りますが、これを細かく分けていふ時には、『霧島つゝじ』『琉球つゝじ』『山つゝじ』といふやうにいはれて居ります。

ところで『さつき』は、少しく見分の知つて居る人は、『つゝじ』といは

ずに、『さつき』といつて居ります。しかし今から十餘年前までは、『さつき』も『つゝじ』の中に入れて、等しく『つゝじ』といつて居つたのであります。

躑躅といふのは、即ち漢名であります。この文字を解釋すると、『躑』は「タヽズム」で『躅』も亦「タヽズム」といふ意味であります。

この漢名の『躑躅』といふ文字を、『つゝじ』に用ゐた起原を尋ねて見ますと、或る本に斯う書いてありますが、昔、支那の或る地方に、牧羊場がありましたが、子羊がつゝじの蕾が、母の乳房によく似通つて居りますので、乳房と思つて、其の蕾を吸つたところが、躑躅して死んだのであります。

と、いふ意味の事が書いてありますが、普通の『つゝじ』は、誤つて人が食しても、獣類が食しても、中食するやうなことはありませんが、此の子羊が食しても、或は『蓮華つゝじ』かも知れません。蓮華つゝじは、毒がありますから、人が食しても、獣類が食しても中毒します。若し『つゝじ』に此の『躑躅』の二字をつけたのが、子羊の中毒からだとしますと、或は蓮華つゝじ類かも知れません。

躑躅の樹と花

躑躅の生育の産地は、日本は勿論、東部亞細亞、北米の一部であります。中でも霧島つゝじと、さつきは純日本産といつてもよろしいのであります。支那の一部にも産するさうです。

躑躅は、種類に依つて多少の差はありますが、樹は短矯な灌木でありまして、「テキショク」と讀みます。す。しかし日光つゝじは、丈が二丈にも及びますが、斯ういふのは、躑躅

の中では稀れなものであります。

さつきは、もう今日まで數百年も經て居りますから、樹幹の高さが、五尺位にもなつて居るものもあります。これ以上に丈の高いのもあります。

人爲的に園藝化したものでない原種のまゝのさつきは、漏斗狀をした五瓣に分裂した花の基部が連なつて居ります。

雄蘆は五本あるのが、普通であつて、雌蘆は、其の中央に一本あります。

さつきに限らず、石南科に屬する植物の花には、花冠の正面上部に、鮮やかな斑紋が點々として印されて居ります。これは密腺であります。

白花であれば、此の密腺が黄味がゝり、黄花ならば、やゝ暗黒色を呈し赤花ならば紫紅色であります。

人爲を加へて、園藝的の變化をしたものは、此の密腺の跡が消えてしまつたものや、種々の斑紋となつて居ります。

さつきの樹と花

さつきは又、杜鵑花、松島つゝじ、五月つゝじ、佐豆木などいろ〳〵の異名があります。

或る古い本に、さつきについて斯う書いてあります。

いはゆる春咲をつゝじといひ、初夏より咲くをさつきといふとぞ、しかれど、春咲くさつきあり、夏咲くつゝじあり。云々。

と。一體につゝじは、春四五月頃に花が開いて、さつきは初夏六月頃に花の咲くのを常とします。しかし春咲くからつゝじだとか、夏咲くからさつきであると、開花期に依つて、つゝじ、さつきと區別することは出來ません。

ところで霧島つゝじを初めとして、多くのつゝじは春に新芽の出揃はない前に、古葉をつけたまゝで、花が開きます。

さつきは、春に萠え出した新芽が、伸びそして綠葉が出揃つてから、氣品の高い花を開くのであります。

つゝじとさつきとは、花の咲く狀態が、斯ういふやうに異つて居るのであります。そして霧島つゝじに比して、花も葉も肥大であつて、枝條が又密生して居り、樹性は、平圓形になり易いのであります。

斯ういふ特徴が、さつきにありますから、少し馴れますと、霧島つゝじ琉球つゝじ、山つゝじなどゝ直ぐ見分けがつきます。

躑躅のいろ〳〵

躑躅の種類

霧島躑躅

さつきが昔から熱愛されたと共に、つゝじも矢張り觀賞樹として栽培されたのであります。其の中で最も愛されて居つたのは、霧島つゝじであります。此の霧島つゝじは、さつきよりも前から觀賞樹としてもてはやされたものであると、古い本に見えて居ります。

然しさつきは多くは、盆栽樹として栽培されたのでありましたが、霧島つゝじは地植として栽培せられて居つたのであります。

其證據には、昔本郷村染井、大久保邊の植木屋には、此の霧島つゝじが

多く培養されて居つたのに徴しても分るのであります。

此の霧島つゝじは、別名を石巌、映山紅、久留米つゝじなど呼んで居りました。

園藝樹としては、其の品種も殆んど數百種に及んで居つて、さつきよりは奇花、變異の花が多く、色彩はさつきよりは濃厚でありますが、色彩の數に於ては却つて豊富であります。

花輪は小輪でありますが、至つて花付きがよろしいのでありますから、前栽などに密植さすれば、四五月頃には誠に爛漫たる花をつけます。雲前、雲膳などの當字を誤り用ゐて居る人もあります。

溫泉躑躅　ウンゼンつゝじと讀みます。この躑躅は、肥前の溫泉ケ岳に産するので、溫泉つゝじの名を得たのであります。花形は四五分位の至つて小輪ではありますが、色彩は淡紫色と白色とあつて、美事な花であります。

葉は又小形で、表裏共に細い毛が生えて居て、枝條も細く、密生して常綠の小灌木で、これも庭園に密植すると、花時には美事な花を開きます。

盆栽とした場合には、極暑、極寒には堪へ得ませんから、夏は家の下に置き、冬は室内に置いて、保護してやらねばなりません。

琉球躑躅　又、白杜鵑花ともいひます。葉は至つて粗大で、表裏兩面に細い毛が生えて居ります。

花輪は、さつきよりも大輪でありますが、見た目には一體に粗奔であります。

原種は紫地の單色でありますが、園藝觀賞樹として、絞りや、染め

分けや種々の色彩のものが作られてあります。

此のつゝじは、元來樹性が極めて強健でありまして、庭園樹として誠に好適のものとして栽培されて居ります。

琉球つゝじの種類は、現今其の主なるものを擧げますと、大霧島、鳳凰殿、白龍、十重車、錦森、大紫、初霜、飛鳥川絞等であります。

現今大いにもてはやされて居るつゝじであります。

山躑躅　此のつゝじは、さつきや霧島つゝじに、最も近い種類でありまして、五月上旬頃に開花します。花輪は一寸位す。

本州中部の山地に自生して、花色が此のつゝじの原色でありますが、自然的に變化して白や、朱咲や、雌蘂の化して瓣となつたものなどもあります。

葉は細長く、淡綠色で、秋の末から冬にかけて、美しく紅葉します。これも好事家の中には、庭樹として觀賞されて居ります。

蓮華躑躅　このつゝじは、本州中部から東北地方の山地に自生して居ります。黄赤色の花の咲くのを、紅蓮華つゝじといひ、黄色の花の咲くのを、黄蓮華つゝじ、緋色の花の咲くのを、緋蓮華つゝじ、樺色の花の咲くのを、樺蓮華つゝじと呼んで居ります。中でも紅蓮華つゝじが最も多いのであります。

右に擧げた各種共に、春に新芽が出る前頃から、競ふて花を開き、落花と共に、長楕圓形の疎奔な葉を生じます。冬期は落葉してしまつて、あらはなる枝ばかりとなつてしまひます。

花は一ケ所から五六輪も群つて咲き出て、誠に美觀を呈します。故に庭

園樹として栽培されて居ります。

茶人などは、好んで黄蓮華つゝじを、挿花にしますが、昔から此の花には毒あるといはれて居ります。

米躑躅　これは東北地方の深山に自生して居ります。花は白が原種でありますが、八ヶ岳に自生するものには、淡紅色のものがあります。又此のつゝじの變種である『おほこめつゝじ』といふのは、花葉共に普通の倍程の大きさであります。

このつゝじは、自生地に依つて、花形や葉形にも多少の相違はありますが、一般に葉も、花も小さく、樹容も又小さいのであります。盆栽としては、枯れ易いので、僅かに庭園樹として栽培されて居る位であります。

黒船躑躅　このつゝじの原産地は、滿洲、朝鮮であります。日本には餘程古く、二百餘年前から輸入されたものであります。

花は春に新葉と共に開いて、花徑は二寸二三分の大輪で、色彩は薄紅色で、開いたところは、殆んど扁平に見えます。葉は卵を逆しにしたやうで先端が太くなつて居て、大形のを五葉づゝ梢頭に集まりついて居ります。そして其の五葉の中心に花をつけます。

黐躑躅　このつゝじは、本邦の中部から九州地方に自生して居ります。一寸見たところでは、琉球躑躅のやうに見えますが、蕚の外面に黐のやうな粘液がついて居りますのと、枝に黒色の毛が生えて居るのが、琉球つゝじと異つて居ります。

花は濃紫色であつて、花徑二寸位もあり、春に新芽が出る少し前頃に花

を開きます。このつゝじの變種で、淡紅色の青崖つゝじといふのがあります。

滿天皇躑躅

これは純然たる躑躅屬ではありません、花はつゝじと異なつて風鈴形に、垂下して咲きます。秋に紅葉しますと、誠に美觀を呈します。

尙ほ躑躅屬で、本躑躅、三葉躑躅、小葉の三葉、紫八汐つゝじ、磯躑躅などがあります。何れも山野に自生して居るのであります。

斯く我國に在る躑躅は其數も多いのでありますが、盆栽として庭園樹としても、栽培するのは、霧島つゝじ、琉球つゝじ位のものでありませう。是等の栽培法はさつきと相違がありません。

つゝじも現今では、さつきに次で栽培されて居ります。

洋種躑躅

洋種躑躅は「アザレア」と稱へられて居ります。我國產のつゝじよりは、一般に派手なのが多く、此のつゝじは、支那、印度產、米國產、日本の琉球つゝじ、霧島つゝじなどの雜種であります。

花は如何にも美麗であつて、花徑の大輪が多いのであります。枝や葉は概して粗大でありますから、盆栽用としては適當しません。然し花の色彩の美はしいのと、溫室の利く爲めとて、近頃盛んに栽培されて居ります。

此の「アザレア」にも種類がありまして、さつき愛好者に喜ばれますのは、早咲きの小輪物よりは、大輪の天司寶といふのであります。

天司寶は、花瓣が大きく、花徑が四寸餘にも及ぶものがあります。中心に丁字咲のやうに、種々の形とした雄蕋の變化した、花瓣が、花笠のやうに簇出して誠に美事であります。

色彩は紅色の絞りと、白無地とがあり、温室で栽培しますと、早春より花を開いて、夏頃迄も、引つきり無しに花が咲いて居ります。

花徑が四寸餘もあるといふ大輪でありますのに、幹や枝が至つて、軟弱でありますから、支柱を立て、倒れるのを防がねばなりません。

栽培はさつきと異つて居りませんが、冬期だけは露天に置くと枯れてしまひますから、温室が、室内に置いてやつて、相當保護を加へねばなりません。

此の外に四海波、青海波といふのがあります。花は天司寶と大同小異であります。尙ほ洋種躑躅に、瑞龍、續雪錦、大鵬錦、源氏牡丹、白牡丹續牡丹、紅麒麟などがあります。

さつきの花

多種多樣の花形

さつきの花形は、實に千狀萬態でありまして、前にも一寸述べましたやうに、凡そ一千種程もあるのが、各々異つた花をつけるのでありますからほんの少しの相違で區別しましたならば、幾千種に上るかも知れません。ですから、さつきを區別します時の大體の特徴をこゝに述べやうと思ひます。それは、

一、花輪の大小に依ること。

二、花の形狀に依ること。

三、花瓣の形狀に依ること。
四、色彩に依ること。
此の四つの點であります。

花輪の大小の特徴

近頃はさつきの花の大輪であるのが、世間一般から喜ばれて居ります。その爲めに新花には、花徑三寸五六分の大輪花『玉振』や『不二錦』といつたやうなものが生ずるに至りました。
昔の本にも、花徑二寸四分を最も大輪とするといつて、圖までも掲げてあります。
三寸五六分もある『玉振』や『不二錦』が生れました現代に於ては、古花中の大輪であるといはれた、『絞朝顏』であるとか『松波』などは、小輪の部に入つてしまひました。

花形の特徴

單瓣咲

さつきの普通の花は、五つの花瓣が、基部に連つて居て、そして淺い鋸齒狀をした萼があり、五本の雄蕊と、一本の雌蕊とからなつて居ります。大盃や、千歲錦や、貴公子などいふのは、所謂單瓣咲のさつき花の部であります。
一花基で五瓣から七八瓣、中には十二三瓣に分れて咲くのもあります。此の外に異狀咲や變異咲等數限りも無くあります。

二重咲

二重咲といふのは、普通の單瓣咲の花を二つ重ねたやうになつて咲くのであります。これは絞朝顏、四季雛、などのやうな花であ

ります。

八重咲　八重咲といふのは、普通にこれを重ね咲ともいつて居ります。つまり二重咲よりも、もつと重なつて咲くので、三四段位に重ね咲きます。つまり單瓣咲きの花を三つ四つ重ねたと同じやうな咲き方をします。

八重咲は花徑が小輪となります。又往々雄蕊が退化してしまつて、一本よりないのもあります。其の例は紅牡丹の如きであります。

千重咲　これは八重咲きよりも、もつと花瓣が重つて咲くので、通例は五段以上であります。

彼の萬重咲、牡丹咲などゝいふのは、此の類に屬するのであります。此の花形は、雄蕊も雌蕊も全く花瓣に化してしまつて、一本もありませ

ん。其例は紅萬葉がそれであります。

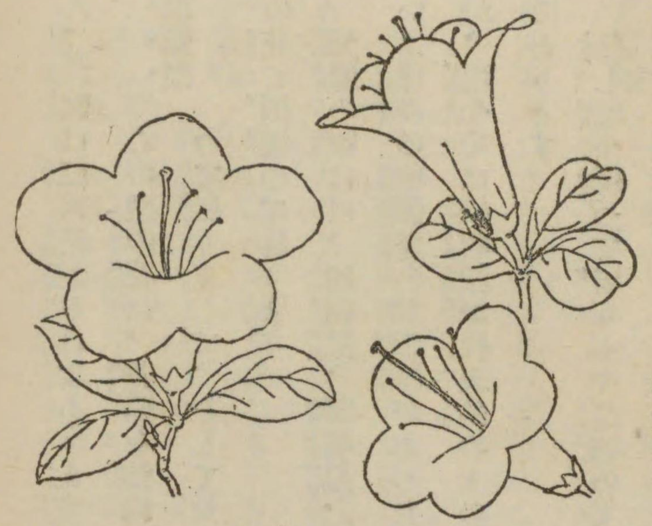
朝顏型　この型の花は、花瓣を連結してあるところの基部が、やゝ太くなつて居りまして、そして長く、筒の様な格好になつて、丁度朝顏の花と似通つて居ります。

元祿の頃には、紺朝顏、藤朝顏、かぎり朝顏、絞朝顏、八重朝顏などゝいふ種々の朝顏型の花形種があつたといふことを古い本に見えて居りますが、現今では絞朝顏が代表的のものとなり、他に二三種殘つてあるばかりであります。

然し現今殘つて居ります是等のものは、一樣に絞朝顏と稱へられて居ります。

享保十八年に板木版として出版された『長生花林抄』、元祿五年に本郷村

染井の伊藤伊兵衞著錦繡枕の改題）にある、朝顔咲き花説明の中から、朝顔型の花の部分をこゝに轉裁いたしませう。



（こん朝顔）　（藤朝顔）

（こん朝顔）花形つるの朝顔に似たり、色紫、葉は圖の如く丸く、立花につがふよき物とぞ。さつき松島と同時に咲く。

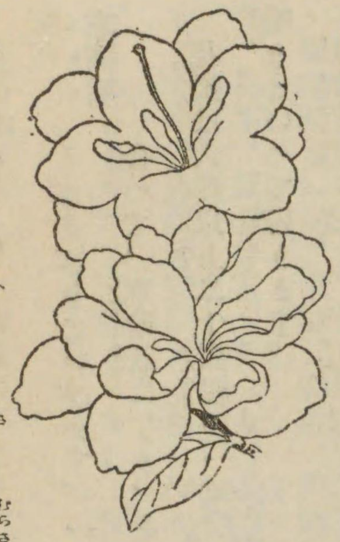
（ふじ朝顔）五月時分に咲く花。形紺朝顔に似たり葉は少し長く丸し、立花にはすぐれて是をつかふ

花は藤色大輪。

（ふじばかま）さつき時分咲き、花葉藤朝顔に似て二重なり。

（かわり朝顔）花形は右に同じ、いろなるほどこい紫、大輪、葉形も右に同じ。

（絞朝顔）藤色より少し紫にて、又少し濃き紫を以てしぼり有り、大輪。



（八重朝顔）

咲く、まれに一重なるも咲く。紫の中に又紫の飛び入り有り、五月時

（八重朝顔）濃い紫、圖の如く八重も咲く、二重も

分に咲く。

車輪咲　くるまざきといひます。一枚々々の花瓣と花瓣との側邊が重なり合つて、車輪狀になり、そして殆んど平らに展開して咲きます。花瓣は六瓣以上二十瓣程の一重咲、又は重ね咲（八重咲）を昔より車輪咲きといつて居ります。

車輪咲型の花は、雌蕊が太くそして短く、曲つて居る花の底部に密着して居ります。

又花心に畸形の細い花葩を多く出して、甚だ美觀を呈します。

此の車輪咲型の例は、麟鳳、御幸錦、御所車、七福神、源氏車などがそれであります。

亂曲咲　○○○さつきの花の中で、亂曲咲は最も奇觀を呈します。其の咲き方が如何にも千變萬化を極め、眞に賑はしき咲き振りを見せます。

例へて申しますと、朝顏の花の獅子咲、牡丹咲などのやうに、實に變幻極まりない花であります。朝顏と異なつて○○○さつきは木でありますから、毎年同じ樣な花が咲いて、奇觀を呈します。

亂曲咲きには、飛龍、舞姿、笑獅子などに見るやうな、花心に匙、風鈴髭、鳥甲、簇雲などゝ稱へる、蘆の變化した、畸形の花瓣が出て居りまして、その畸形の花瓣が又、種々樣々、千姿萬態の形が入り混つて居る事などもありますから、觀る人をして自然の妙技に恍惚たらしめねば止みません。

變化に富んだ咲き方では、これが第一位でせう。

花笠咲　これは花輪の中心に、花葩の渦を巻いた様な有様になつて居ります。

袴咲　丁字咲、芍薬咲、巻絹、山姥などは此の咲き方であります。

花瓣の外に、丁度袴を穿いたやうに、二重に本花葩よりは、やゝ小形の花瓣が重つて居るのを、袴咲きといひます。

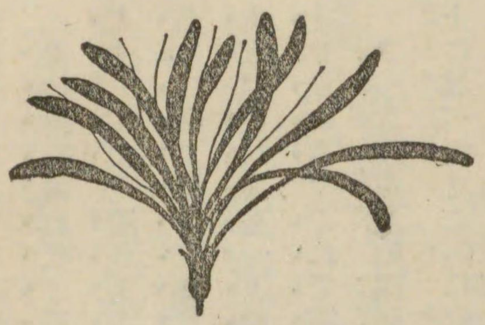
この袴には、本花葩其のまゝを只小形にしたものと、亂れ狂つて、獅子蓑、鬘などゝいふ、畸形の花片となつて、咲いて居るものもあります。

采咲　狂獅子、蓑錦、梅花錦などは、此の型に咲いた名稱であります。

又、二重鶴、絞朝顔にも、袴のある花があります。

○○○さつきの花は、何れも美麗であつて、又奇觀を呈して居るものが多いのでありますが、采咲きばかりは如何にもさびしく咲く花であります。

ます。



（采之金）

蘭咲　これは花瓣が全く退化して伸長し、丁度松の葉でも束ねたやうに、簇り出て居る奇觀を呈しやさるゝのであります。

これは盆栽として、○○○つさつき通の間にもては此の采咲きは、俗に切れ咲とも稱へて、花軸迄深く細く切れ込んで居て、丁度采配に似て居るところから、此の采咲きといふ名がつけられたのであります。

綾錦、舞孔雀は采咲きでありますが、標本は金の采であります。

蘆ばかりが發達して、威勢よ

て居るのをいふのであります。

此の蓙咲は、さつきの花の中で、最も甚だしい變異でありまして、實に面白味があります。

此の外に亂れ咲く花の數は非常に多いのでありまして、これに一々説明しましては、際限もありませんし、又花の形を整へて居らぬ小花片や、綴花芽に咲く變形、花等についても、とても一々説明する事は誠に煩はしくもあり、それ等を一々枚擧しては、本書一冊を費すも尚ほ説明を爲しつくしませんから、それで花形に依る標準の説明は終る事とします。

さつきの花形の標準は、大體に於て、花全體の形によるので、それは以上に述べたところに依つて充分説明しつくして居るだらうと思ひます。

次に花瓣の標準について説明いたしませう。

花瓣の形狀の特徴

本葩　普通の花葩でも、能く細かに見ますと、其の花はいろ〳〵なものがあります。

ところが現在では一般に好まれて居る流行は、一片の花瓣の肉が厚く、そして花の大きい、花軸から繰り出す花瓣の力が、勢ひ餘つて、自然と波花に皺の起つて居るのが好いとせられて居ります。

この波打葩の花は、實に賑はしく實に柔か味がありまして、見る目にも非常に快よい感じを與へます。例へば群鳳の如きは、波打花中の主位に居るものであります。

普通のさつきの花片は、やゝ楕圓に近い花が基花形となつて居ります。

例へば大盃、松島の如きであります。松波、揚貴妃の如きは、やゝ長楕圓形でありますから、長花葩といつて居ります。

此の外に圓形に近いものでは、例へば、谷間の雪、千歳錦であります。

櫻の花に似て、瓣の先端に、淺い切れ込みのあるものには、例へば御所櫻、金華山などであります。

櫻の花の反對に、瓣の先端が、鉾のやうに尖つたものには、例へば風車富士霧などがあります。

百合の花瓣のやうに、瓣の先端が外の方へ巻き返つて居るものには、讃美錦、旭鶴などがあります。

花瓣が極めて狹く長くなつたものには、金の采、綾錦などがあります。

葩咲　蘆の變化しましたものには、奇異なるものがあります。其の形も一定して居りませんで、時に名狀すべからざる畸形のものもあります。

髭葩と稱するものは、丁度龍の口髭のやうに、糸の如くに縦横に花心から出て居るのであります。

此の髭の先端に風鈴に似た小花片や、旗の花や鳥類の形などがあるのもあります。これらのものは、其の形に依つて、風鈴葩、旗葩、鳥頭葩などと呼ばれて居ります。

袴葩　此の外に、簇雲、松葉、渦などゝ稱へる、奇異なる形もあります。

の花瓣は、通例は外獅子、外丁字などゝ稱へられて居ります。これには凡そ三種程あります。

花瓣の外側に附着した五個の鋸歯状の筒形の袴葩を鬘といひます。霧島つゝじには、袴葩は幾種類もありますが、さつきには鬘は少ないのであります。鬘はたゞ奇異なる形狀をして居るといふのみでありまして、別に美觀も快感も與へるものではありません。

袴葩で美しいのは、獅子と蓑とであります。つまりこれは一重咲きの外に小さく、又一重が、花の基部から、細く裂けて分れて居て、一種いふべからざる異なつた趣を添へて居ります。

蓑の葩といふのは、その花の基部から細く裂け分れた花瓣が、一齊に揃つて居るのをいふのであります。

獅子といふのは、花の基部から細く裂け分れた花瓣が、廣いのもあり、狹いのもあつて、不齊であるのをいふのであります。

蓑咲きは、昔は、白腰蓑と稱へて、本葩は赤く蓑の白いもの、覆輪の源氏腰蓑、柿色の柿腰蓑、赤腰蓑、笹腰蓑、かつほこしみの、たがね腰蓑、八重腰蓑、あざなし腰蓑、等種々の種類がありました。

しかし乍ら現在に於ては、是等の種類の中には、見ることの出來ないものもあります。

獅子咲きでは、現在稀に見る、狂獅子の如きは如何にも美しい花であります。

花色の特徴

さつきの花の色彩は、さつきの美の生命の大部分を占めて居るといつてもよろしいのであります。尤も花ばかりでなく、樹容などもさつきの生命

ではありますが、何といつても花の色彩は大切な條件の一つであります。

世の盆栽中にも、花の色彩の美くしいものは、澤山にあります。然し石南科の植物の花の如くに、如何にも氣品が高く、少しの汚れも無く、如何にも明るい感じを與へる花は、さう澤山は無いだらうと思ひます。

一體此のさつきの原種の花の色は、無地の一色で、如何にも單調な色彩の花であつたのであります。然るに元來此のさつきは變化性に富んで居りますところから、巧みに人爲に依つて、追々と改良され、變種、奇異なる諸花が作り出されたのであります。

現在に於て、さつき熱愛家が、現在の花の色彩を分類しまして、種々の名稱などを附して居りますが、しかし大體に於ては、無地花、染分花に大別して居ります。

此の二大分類から更に種々に分けて居りまして、染分花を覆輪花と絞り花の二つに分けて居ります。左に今少し詳しく説明いたしませう。

無地花

無地花と申すのは、赤、紫、薄色、白、赤に少しく黄を帶びた即ち鴇色等でありまして、大體に赤を基本色としたものであります。

でありますから青であるとか、黄であるとかいふものは、基本色にはなつて居りませんし、又無地花の色彩の中に入らないのであります。

奇異なるものを好む現在のさつき熱愛家は、花の色彩に青味のある紫色を望んで居りますが、それはまだ出來て居りません。現在の紫といふのは、即ち赤味の濃い紫色のことをいふのであります。

染分色

一つの花の中で、花瓣が色のもあれば、色のついたつまり染分けになつて居るのもあります。これに又一枝のに咲いた全部の花輪

の中で、白と赤との咲き分けになつて居るのがありますが、これは、それ程珍重される程のものでは無く、たゞ單純な咲き分けであるといふに止つて居るのであります。

色彩美の優れたものとしては、覆輪花と絞り花とであります。

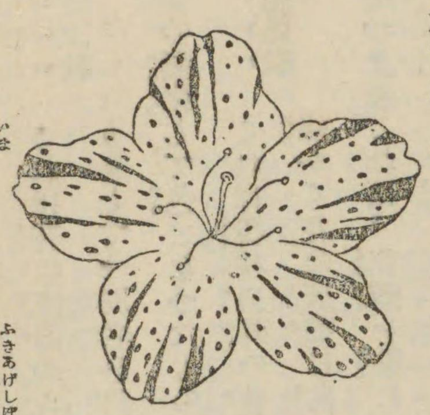
覆輪花　此の花は、一兩年前から新花好み、奇異好みのさつき熱愛家の間に流行して居りますが、これにも二種類ありまして、一は白の覆輪、一を赤の覆輪といひます。

赤の覆輪を底白花といひ、又俗に本覆輪ともいひ、花の底部が白く抜けて居るもので、これには谷間の雪、貴公子、紫雲の月などがあります。

白の覆輪は、赤覆輪ほどにもてはやされませんが、相當に好まれて居りますこれには峯の雪、小町などがあります。

白の覆輪には、各花瓣の邊緣が、覆輪したものがありまして、これを追羽子絞り、鉢覆輪などいふ別名もあります。

此の外に金襴覆輪といふのは、覆輪がやゝ深く染め込んで、絞りとなり一花面が、噴き上げ絞りが七分と、噴き込み絞りが三分と混つて彩られた誠に複雜な覆輪であります。これは高嶺絞り、瑞龍寺などに、混つて咲くことがあります。



（花りぼし）

絞り花　絞り花の色彩も亦、賞美すべきであります。しかし絞り花には、種々雜多な色彩がありまして、噴込み絞り、鹿の子絞り等の、現在さつすから、今こゝには、噴上絞り、

○き界に於て代表的となつて居るものについて説明しませう。

噴上絞　これは花の底部から、外方に向つて、羽毛の形に彩つたものでありまして、別名を羽根絞り、矢羽根絞りともいひます。これは蜜腺の變化して色となつたものであります。

噴込絞　これは覆輪以外の普通絞りもの丶主なる彩色でありまして、花の縁から花の底部に向つて、染め込んで居るのであります。つまりこれは、花瓣を堅に貫いて、それが模様のやうにならずに、中途で點々として薄らいだ絞りをして居るのであります。

鹿の子絞　これは一花瓣全體に點々と、斑點を散らしたものでありまして昔から此の名稱があつたのであります。此の鹿の子絞の斑點の小さいのが、吹掛絞、微塵絞といひます。

點々の丸くなつて、大きいのを、霰絞りと稱へられて居ります。

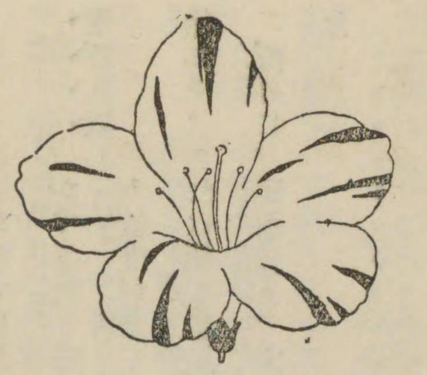
更紗絞　これは各種の堅絞りでありまして、大すじが少しづゝ混じつて、こまかなすじが、澤山にあるのをいふのであります。

飛び入絞　かすり絞りのやうになつたものであります。白地に色の飛び入り絞りが多く、そして色地に白のかすり絞りのあるのは、至極稀れで、これは頗る珍品であります。

此外に、鳴海絞り、友禪絞りなどゝいふ名稱を近頃稱ひ出して來ました。

現今に於てさつき熱愛家の望んで居ります爲めに、新花の絞りを出さうと努めて居りますが、それ等の人々の目標となつて居りますのは、絞り底白であります。

これは種々の絞り色彩の花であつて、底の白い花を混じへ咲くのを欲して居るのであります。



（飛び入り絞り）

従來も底白の絞りはありましたが、如何にも鮮明に拔けて居る底白花は、無かつたのであります。それで現在では、これを新たに作り出さうとして試みて居る人も多いのであります。これと共に、従來皆無であつた、青色黄色の花をも新たに作り出さうとして居るのであります。底白花も、黄色花も、青色花も必らずや近い將來に於て作り出される事と思ひます。

さつきの古い種類

さつきは今から二百二十餘年前から、栽培されて居つて、其頃でも現在に劣らぬ程に熱愛されたものでありました。古い本の中に圖入れになつてさつきの種類が揭げられてありますが、今其の中から、參考の爲めに、花名だけを茲に揭載いたしますと。現今の新花と稱せられるもの丶中にも、此の古い花名のものがあることを發見いたします。

松島	たがね
錦木	吉野川
かうしよく	雛
こふじ	ぶしがさね
げんじ	
裸白	
小波	
ゆきくれなゐ	

こざらし
小金
おそらく
高砂
眞紅
薩摩紅
まんゑ
羽衣
名月
ゆきひら
こしなみ

鹽釜
嵐山
下紅
おりいれ
八丈紅
大萬重
小紅
蜀紅
紅絞
小紫
なには絞

紫野
二人靜
さりがね
高野紅
初雪
せんゑ
底白
廣島絞
ちり
ゆきちう
百萬

おいへ紫
飛入
葛城
無地白
桔梗
小絞
夏山
胡蝶
勝山
銀杏
ざい

明月
菊盛
淺黃
裸紅
風車
水紫
さた山
つるかしぼり
女郎花
藤紫
浮草

白里月
近江
おもだか
大絞
紀伊の國
清白
兩面
薩摩紫
花揃へ
白波
白雲紫

練衣
空蟬
三井寺
白藤
紫風車
花がたみ
洒落雲
梅ケ枝
浦波
柏咲
こつばき

あざなし
さつきせんゑ
花かゞみ
源氏縠
袖籬
八代
錦
源氏絞
音羽高嶺
重陽
大藤

日暮し
豊薩摩
清種
十輪
袖鹿の子
神樂岡
とつさう紫
奥紫
紅雛
關守
羅漢

おさや
紅紫
藤高嶺
いと紅

せいぢ
達摩紫
紅牡丹
一文字
園城寺
吾妻紅
尾上

花かづら
人丸
玉かづら
高松
嶺の雪
花のもと
夏霧島
藤波
衣川
音羽山
源平

花笠
夏波
もし絞
おしほ
薄雪
かしうろん
まさ衣
紅葉重
叢雨
吉野紫

せいやう

源氏紫　松なみ
藤重ね　ぶさう腰蓑
源氏腰蓑　柿腰蓑
おそらく腰蓑　小波腰蓑
かつは腰蓑　高嶺腰蓑
八重腰蓑
大阪花車
松島腰蓑
白腰蓑
赤腰蓑
大腰蓑
あざなし腰蓑

以上に掲げたものは、古い種類に屬するものであります。

變り花と變り葉

さつきの變種作出

在來のものよりは、改良を加へ、人爲的に變種を作り出すことに、さつき熱愛家は努力して居りますが、一體さつきの變種は多くは、實生に依つて作り出さるゝのでありまして、枝變りに依ては、往々全く別種のものを作り出すことがあります。

實生に依る新花作出法は別に述べるとしまして、こゝには挿芽及び栽培上にも心得て置かねばならぬ、花と葉の變化といふことについて説明しやうと思ひます。

底白覆輪の作り方

底白覆輪の花の開く固定種でありましても鮮明に底白覆輪を現はさない場合が多くあります。

斯ういふ事になりますのは、栽培上の巧拙に依る場合が多いのでありまして、一體此の底白物は、稚樹の間には、底白が鮮明に抜けないものとされて居るのであります。稚樹はどうしても、花を澤山につけないのでありますし、又、樹勢が旺盛でありますために、花底まで色をもつのが常であります。

老樹となりましても、樹勢の旺盛でありますのは、どうしても鮮明に底白が抜けません。

只今では非常に底白花が流行いたしまして、それと共にさつき栽培家に依つて、人爲的に改良を加へられて居りますから、若木でありましても、極めて鮮明に底白花が抜ける種類も作られて居ります。

老樹の花は、底白を作らうとするにはどうしても、痩せ作りにするのが底白花の秘法となつて居ります。

この秘法については、古い本にも書かれてあります。

底白は肥痩に依つて、花の變化するものでありまして、この呼吸さへ會得して居れば、完全に作り出すことが出來るのであります。

絞り咲きの作り方

絞り咲き種のさつきに、どうかすると一つの枝に全部赤無地ばかりが咲

く事があります。此の場合に、其の枝には、再び絞り咲き種を咲く事は、極めて稀れであります。

斯ういふ枝は、時季を見計らつて、切り取つてしまつた方がよろしいので、さうしなければ、其の一本の樹には益々赤無地の花が多く咲くやうになるのであります。

又絞り咲き種の枝に、赤無地ばかりで無く、縁白覆輪花ばかりが咲く事があります、斯ういふ時にも、矢張り其の枝を切り取つてしまふのであります。

采咲きの作り方

采咲き種にも、一本の枝に丸咲き花が咲くことがあります。これは絞り咲き種の枝が、一本悉く赤無地花が咲くやうに、采咲き種の一本枝が悉く、丸咲き花が咲かずに、ぽち〳〵と混り咲く事があるのであります、此の時にも、此の枝は切り取つてしまはねばならぬのであります。

底白咲き種でありましても、絞り咲き種でありましても、異花が混り咲いた時に切り取つた枝は、挿芽用として用ゆることは、さつき栽培家は、大の禁物としてあります。

絞り咲種に覆輪花の咲いた時

絞り咲き種でありながら、どうかした變化によつて、一本の樹の枝に全部覆輪花のみ咲く事があります。此時には此の樹の葉色は、全部赤味を帯ぶるものであります。

これは絞り咲種に一覆輪花の咲のは原則でありますから、若し絞り咲き種の葉を見まして、其の梢頭に、赤葉が出て居りました時には、其の梢頭に咲く花は、覆輪花であります。

絞り咲種に赤無地花の咲いた時

絞り咲き種に、赤無地花が咲きました場合には、其の花の芽の周圍について居ります葉は、赤葉であるべき筈でありますのに、さうでは無くして、青葉と赤斑入葉の場合が多いのであります。

又一本の樹が、赤無地に變化した場合にも、同様に青葉と赤斑になります。

赤葉と青葉

赤葉と青葉とは、此の區別が最もよく判りますのは、冬季でありまして新葉が出るやうになつては、其の見分けが困難であります。

又種類にも依るのでありますが、蕾の先端に依つて、花の色彩を見分けますことなども、餘程熟練した人で無ければ容易ではありません。

さつきのいろ〳〵

さつきの種類

さつきの種類は、現今に於ては、其の數が三四百種もあり、一寸した違ひから、いろ〳〵の名稱を附して居りますが、これをも數へましたならば殆んど一千種以上にも上つて居ることでありませう。

それ程多い種類を一々記載して説明しますのは、煩らはしいから、茲には現在さつき栽培家に依つて、栽培されて居ります代表的の物をのみ記して置く事といたします。

單彩花

單彩花とは無地花であります。此の種類も非常に多いのでありますが、代表的のものを擧げます。

大盃　この花は、紅色花の代表的の花でありまして、盆栽花としての名花であります。紅色と桃色の如何にも生氣潑溂として居る、大輪花であります。

博田白　これは白花中で、雪の如き純粹の白さでありまして、頗る大輪の大盃と好一對であります。

十六花　これは現今に於て、新花を作り出す母樹としまして、多く用ゐられて居ります。如何にも樹勢が強健でありまして、紅色、鴇色があり、

花瓣の肉が厚い、誠に美しい花であります。

高砂　藤色の大輪の、實生の母樹として用ゐられて居ります。樹勢が強く、花瓣の肉が厚く、大きな美事な花が咲きます。

銀世界　この花は雪のやうに、眞白い一重の大輪であります。

夕霧　この花は、薄い紫色の一重の大輪咲きであります。

薩摩紅　この花は、濃い紅色の大輪咲で、花瓣の肉が厚い、立派な花であります。

采咲、袴咲

金の采　この花は、花瓣が細長く裂けて居つて、其の様が丁度采配に似て居るので、此の名があります。

一花十二三瓣をつけます。そして雄蕊も雌蕊も普通に具へ居ります。濃い紅色の花に、盆栽花としては、すので、現今でも一樹一千圓以上の老名木が殘つて居ります。

○○○○

さつき熱愛家中、玄人の澁い好みとして、喜ばれて居る逸品であります。

綾錦　この花は、丁度松葉のやうに花瓣が分れて居りまして、白地に赤色の絞りを染め出して居ります、誠に珍らしい花であります。然し時々丸瓣や、種の奇形の花を混へて咲く事などもあります。

狂獅子　この花は、袴咲き中で、最も美しい花でありまして、花瓣の外側に、獅子の袴をつけます。濃い紅色の大きな模様の絞りを現はします。

四季咲

此の四季咲きも、非常に種類が多いのでありますが、代表的の花名について説明いたします。

四季雛　この花は、淡い紅の地色に、紅の吹き掛け絞りを現はします。二重咲の花で、四季咲きとはいつても、初夏と、秋の二季に花を咲きます。盆栽花としての優なるものであります。

四季高嶺　この花は、縁白に咲きます爲めに、高嶺の名があります。鴇色に紅の絞りを現はし、二重咲で、開花期は、初夏と秋の二度であります。

錦重　この花は、雪のやうな純白色でありまして、それに紅絞り二重咲きで、初夏と秋の二度に咲きます。

九重錦　この花は、鴇色に紅の絞りで、二重の花でありまして、夏と秋に咲きます。

底白咲

谷間の雪　この花は、昔からある古い底白花があります。色は赤色で、花瓣はハート形の一重の大輪咲きであります。昔から有名な花だけに、現今でも、非常に高價な古木が殘つて居ります。

恩賜　この花、は鮮かな美を見せる花で、色は濃い紫で、花心に純白を呈し、一重大輪の如何にも氣品の高い花であります。

聖代　この花の色は、桃色で底白が鮮やかであります、頗る大輪の美事

な花であります。

揚貴妃　この花は、紅色の美くしい底白であります。五瓣と六瓣とが混り咲きます。

麟鳳　この花は、朱色の車咲きで、底白が鮮やかにぬけ、花心に多數の旗瓣を出し、頗る異彩を放つ花であります。

叢雲月　この花は、紫色で、底白の、如何にも優美の一重咲きであります。

廣樂　この花は、濃い紅紫色で、鮮美なる底白を現はす、一重の大輪咲きであります。

偕樂　この花は、藤色の紫で、鮮やかなる底白の光琳葩の一重の大輪であります。

貴公子　この花は、桔梗のやうな形の花をつけ、紅紫色に、底白を現はし、氣品の高い、如何にも貴公子にも比すべき、高尚な花であります。

朝顏咲

絞朝顏　此の花は、霧島つゝじと、さつきとの中間に咲く、早咲種であります。昔から栽培されて居ります。花の形は、朝顏に似て居ります。花筒は長く、瓣の先端が廣く開展して居ります。

花の色は、濃い紫色の暈しに、紫色の絞りがあります。一重咲きと二重咲きとがあります。

昔は、朝顏咲きには、紺、變り、絞り、八重、藤袴、藤など種々あつた

のですが、今は右の内二三種だけ殘つて居りまして、それを混同して、絞朝顔といつて居ります。

八重朝顔　この花は、絞り朝顔と殆んど別種とされてあります。

江戸錦　この花は、薄紅色の一重の大輪であります、誠に美事な花が開きます。

覆輪咲

峯の雪　この花は、花輪の外輪が白色であります。底白花の谷間の雪に對して、峯の雪といふ名稱があり、兩種は好一對として賞美されて居ります。

鴇色縁白の覆輪花で、絞りを交へて居り、一重の堂々たる大輪の如何にも美事な花であります。

旭鶴　この花は、淡紅色の暈しで、縁が白く、そして大輪咲きでありますから、如何にも濃艶な感じのある花であります。

富士の雪　この花は、紅色で、縁が白く、覆輪を現はします。此の覆輪が深いので、底白花に對して、底紅といつて居る人もあります。

重ね咲

長壽樂　この花は、クリーム色に濃い紅絞りと、底白花とを混へて咲く二重の大輪花であります。

紅萬重　此の花は、丹紅色の菊の花のやうに重ね咲く、珍品であります。

酒中花　この花は蔬長く抜け出して居りまして、色は丹紅色で、底白を現はし、二重咲きの如何にも、美くしい花であります。

帝國　この花は、地色が青白でありまして、瓣の肉が厚く、二重咲きで紅と紫の絞りを染め出す、頗るの大輪花であります。

旭の錦　この花は、白地に桃色の絞りを染め出した、二重咲きの鮮麗な花であります。

霧ケ關　この花は、鴇茶色の地に紅絞りと、白の絞りを混へた、二重咲きであります。

天明開　この花は、紅絞りで、底白を出す二重咲きであります。

笑獅子　この花は、桃色の輪咲きてありまして、一重と八重と混り咲きであります。又時に丁字咲きも出ます。

花心には、鳥甲をつけて、變化極まりない珍花であります。

絞り咲

現在栽培されて居りますさつきの大多數は、絞り咲きであります。斯ういふ譯でありますから、此の大多數の絞り咲きについて、こゝに文字で說明しましても、とても其の說明が眞を寫し傳へることは出來ません。一寸した變り方で、色々の名稱が附されてありますから、說明が如何にも込み入つて、實物を見なければ、肯づけません。で何よりは大輪があるとか、何よりは葉の形が少し違ふとか、又何よりは瓣の肉が厚いとか薄いとか、又何よりは色彩が、少し薄いとか濃いとか、何よりは氣品が高いとか、高尙でないとか、何よりは絞りが細かいとか、大きいとか、さういつたやうな

區別について、種類を分けてあるのですから、こんな些細な點は、文字で説明しましてもとても説明し得るものではありません。ですからこゝには各種の代表的のものについて、其の著るしい特徴を記して置くことにいたします。

松波　この種のさつきは、樹勢が強健でありまして、又枝葉が密生し、如何にも樹姿が引き締つて居つて、盆栽樹として最も好適であるところから、現在に於ては、さつき界第一全盛の花として光つて居ります。

又古名木などの多い事も、此の種でありまして、品評會などの場合に於ては、何時でも松波は名木として賞讃を博して居るのであります。

花は大して大輪ではありません。寧ろ中輪でありまして、花瓣の肉が厚く、そして高尚で、如何にも奥床かしい氣品を具へて居ります。

花の色彩は紅絞りで、四五輪の變り咲きがあつたり、十五六輪の多瓣花があつたりしまして、花つきもよろしいのであります。

昔から今日まで三百數十年間も、さつき熱愛家に栽培されて居りますので、古名木となりますと、一千圓以上の高價な物も少なくはありません。

千歳錦　この花は、絞り花中の代表花であります。

この花は、鮮麗な白地に、紅紫の絞りを現はし、一重の大輪の美麗な花が咲きます。

花つきは最もよろしく、全樹は花の塊りといつてもいゝやうな、美觀を呈します。松波に次ぐ名花として、現在盛んに栽培され、價格も高いのであります。

護美錦　この花は、昔からの名稱を『斷罪』といつて居つたのでした。

此の名稱の起原は、昔下野喜連川城主左馬亮顯照侯が嗣子無く、嘉永年中細川越中守の子、護美といふのを養嗣子としました。其時細川家秘藏の此の花を齎らして來ました。顯照侯喜んで『これに手を觸るゝ者は斷罪に處するぞ』と制札を建てられたので、これより斷罪といふ名稱が、民間の人人の間に附せられたのでありました。後に斷罪では面白くないといふので護美錦と改めたともいひ、又護美が病を得て、細川家を歸つたので、此の人を追慕する餘り、護美と改めたともいつて居ります。

此の花は、一重の大輪咲きで、あらゆる絞り模樣を混へて、美くしく咲くさつき花の中でも、美觀を添へる花であります。

灘波錦　この花は、昔は『なにはしぼり』といつて居りました。白地に紅の花形絞りを現はし、掌狀花と采咲きとを混へて咲く、珍種でありま

す。

松島　この花は、古來からの名花であるだけに、老樹や名木も多く存して居ります。然るに現今では餘りもてはやされませんのは、松波が全盛を極めて居りますので、時好に適せない爲めでありませう。

此の花は、つまり松波を大きくしたやうな咲き方でありまして、葉も大形で少しく粗笨の感があります。花の美は、松波よりも、大輪であるだけに、此の方を好む人もあります。

月山錦　この花は、古花で大輪で、そして花瓣の肉の厚いことは、これに比敵するものはありますまい。花は雪のやうに眞白の地に、紅の絞り咲き、如何にも氣品の高い花でありますす。

人丸　此の花は、地色が薄柿色でありまして、赤色と白の絞りが混り咲

きます。一重の大輪で、十二三瓣迄位の多瓣な花を開き、古來からの名花として有名であります。

東明錦　此の花は地色が、薄紅色でありまして、濃い紅色の絞り花が咲きます。

蜀紅錦　この花は、二百數十年以前からの古花でありまして、白地に赤の飛び入り絞り、それに紅白無地花が混り咲きます。誠に色彩の多い美事な花であります。

源氏車　この花は、車咲きの代表花でありまして、淡紅の地色に、濃紅な絞りがあり、縁に白く、覆輪を現はし、八九瓣から二十瓣位までの美事な車咲きであります。

金華山　この花は、青白の地に、紅の堅絞り、吹掛け、半染など種々咲き分けて、七八瓣を出し、大輪の美觀を呈する花であります。

博多錦　この花は、雪のやうに白い地に、鮮紅の絞り、花つきもよし、又花に力のある大輪咲きであります。

花時に滿開の時は、全樹悉く花であるやうな、美觀を呈します。

新花絞咲

群鳳　此の花は、近時人氣のある波打花中の代表花でありまして、花瓣の肉が厚く力が餘つて、疊み波の如くに起伏して居る樣は、如何にも壯觀を呈します。

地色は雪のやうに白く、それに鴇羽色の絞りを程よく、荒絞りと吹掛けとに混へて、色彩が實に濃艶であります。濃艶とは申せ、下品では無く、

何處かに俗に墮せざる風韻があります。

麗峯　この花は、高砂の實生より出た新種咲きであります。雪のやうに白い地に、濃藤紫の荒い絞りと、半染めとを友染のやうに混り咲いて、花瓣の肉も厚く、現在の新花中優位に居る花であります。

不二錦　この花は、駿河國で自然生育の實生から出た大輪の新花でありまして、葉も亦肥厚して、濃綠を呈して居ります。花の地は、雪のやうに白く、これに濃紫の飛入絞り堅絞、半染絞りなどを混ぜ咲きますので、色彩が誠に美くしいのであります。花瓣も波を打ち如何にも、豊滿な花であります。

萬歳　この花は、十六花と玉織姫との交配によつて、作り出された新花咲きであります。

底白の地に、紅と紫の絞りと、底白花とを混ぜ咲きます。普通の底白は若木には現はれませんが、此の種は二年生より、絞り底白を出します。

雪の上　この花は、雪白の地に、紫の荒絞り、吹採け絞り、半染、峯白を出し、又稀には紫無地に白飛白の花を出します。色彩の變化は實に極り無く、多種多様でありまして、花瓣も波を打つて誠に近代人の好む花であります。

玉織姫　この花は、色彩の美はしい變化する事に於ては、此の花に及ぶものはありません。絞り、底白、色無地、白無地等が混り咲きますが、花輪は他種に比して稍小輪であります。

樹勢の強健で無いことが、此樹の缺點でありまして、若し栽培するに容

易な程に、樹勢が強健でありましたならば、確かに松波を凌駕する事の出來る名花となるのであります。

貴春雨　この花は、一名を春雨錦ともいひます。白地に藤紫絞りで、半染、覆輪等が咲き出します。花瓣の先端が非常によく發達して居りまして、大波を打つて開展します。故に花筒の部分が、間々外に反つてしまつて、二段となるものを見受けることがあります。

大鵬　この花は、快い如何にも明るい紫堅筋絞りと、飛白模様とを咲き出します。波打瓣で、外に木阪大鵬といふのもあります。

二十世紀　この花は、谷間の雪に絞りを混へた花で五六瓣から十一二瓣位までの花が咲き出します。

阿古耶姫　この花は、花瓣が六瓣から十二三瓣を出し、濃い紫色の絞り、斑點等に覆輪をも加へて、如何にも美くしい花であります。

藤御殿　この花は、白地に藤紫絞り、波打ちた光琳瓣であります。

天慶　この花は、大輪の谷間の雪に似た底白花と、紫堅絞り、半染無地なども咲き出します。

雲鳳　この花は、五六瓣から七八瓣までゞ、波を打つた群鳳に似て居る紫の絞りでありますが、色彩が非常に美くしく、見た感じが如何にも快い花であります。

華實　この花は一名を南州といつゝ居ります。牡丹色の荒絞りを染め出し、花の肉が厚く、八九瓣の大輪を出します。

恩賞　この花は、淡薔薇色の地に、紫色の絞りを染め出し、丸瓣重なり合つて、大輪の豊かな花であります。

聖運　この花は、護美錦の實生から出た新花で、母樹よりは如何にも豊かな大輪花であります。

豊明　この花は高砂の實生から出た新花であります。白地の少ない藤色絞りであります。

玉振　この花は、花輪がよく開展して、現今のさつき中での大輪花。花徑が三寸七八分で十二三瓣の巨瓣を咲き出し、變化のある色彩は誠に偉觀を呈します。これは最近に現はれた、實生の新花であります。

光鳳　この花は、護美錦と、高砂との混合作出花であります。絞りに變化が多く、花瓣の肉も厚く、大輪花であります。

佳唇　この花は、玉織姫と高砂との混合作出の新花であります。絞りの外に底白、覆白等を出す一種で、大輪の花であります。

さつきの培養法

さつきの養土

○○○

さつきは、現在の流行は、盆養せらるゝ事がありまして、一體盆栽植物の生命とする所は、第一に養土であります。○○○さつきのみならず、植物は、樹木であつても、又蔬菜類でありましても、天然の土地に栽培するに當りまして、其の土質の適不適、良不良がありまして、それに依つて生育上にも善惡があるのであります。況んや盆養いたしますものは、僅かに其の植木の生育に堪へ得るだけの、最少限度の養土しか與へて無いのでありますから、土の成分の働きは、必ず其の植木に對して、充分に有効なもので

無くてはならぬのであります。

若しも不適當の土を與へるか、成分が充分に有効で無い土を與へましたならば、どれ程丹精しても、決して思ふやうに完全に發育するものではありません。

殊にさつきの如き植物にありましては、此の養土の關係に依つて、良結果を得るか、不良の結果を得るか、分れるのでありますから、養土はさつきの栽培には、餘程深い研究と、注意とを要するのであります。

養土の成分　現在に於ては、斯ういふやうに、さつき栽培上に大切であります所の養土の成分に就ても、充分に研究されまして、完全な物で且つ經濟的なものが發見されて居ります。普通世間のさつき熱愛家が用ゐて居りますのは、腐葉土三分、水苔或は山苔の細栽したもの三分、

それに粒狀土四分を用ゐて居ります。又其土地に依りましては、乾溝土五分に、川砂三分、山苔二分の混和したものを使用して居るところもありまず。茲に注意して置きますのは、以上の成分混合の養土は、即ち盆栽の土でありまして、挿芽用としては別項に述べやうと思ひます。

又此の盆栽の土は、畠土に川砂、燻炭などを混和したものを使用して居る人もあります。然し成分からいひますと、腐葉土を使用した方が、成績が良好なやうであります。

然し此の土は、僅か數鉢乃至十數鉢の盆栽なれば容易に得られませうが大量にはそれ程多く得る事は困難であります。其處で、種々苦心の結果得られたのが、鹿沼土と稱するものであります。

鹿沼土　鹿沼土と稱するのは、群馬縣の各地から出ますところの、ぼろぼろの赤土であります。一見して小石の様に見えますが、小石で無くして確かに土であることは明らかであつて、肥料の含有分は少しも無く握れば極く軟かく、細かく崩れてしまふ土であります。

此の鹿沼土は、野州一帶何處からでも得られるので、最初に上州鹿沼のさつき栽培家が、此の土を得て、さつきを栽培しましたところが、非常に好結果を得ましたので、それから直ちにその事が世間に知れ渡り、鹿沼土と稱せられて居るのであります。

色は前に一寸述べましたやうに、赤土色でありまして、地下より採取しました時には、粒狀をして居ります。これを乾燥いたしますと、少しの風にも吹き飛んでしまふ輕さとなります。指先で一寸摘んでも、微細な白い

粉になる程の土であります。

此の土が水分をよく含み蓄へまして、そして丁度さつき栽培土として好適である程の粒狀でありますから、鉢植として用ゐました場合、餘計な水分は悉く排出しますから、其上に挿芽用としても又植換用としましても、根腐れなどの生ずることがありませんから、さつき栽培土として理想的の土であります。

苔類の混和　此の鹿沼土ばかりを用ゐてもよろしいのでありますが、これに眞土の微細なものを篩ひ越したのを二三分と、水苔か、山苔の細截したものを二三分とを混和して用ゐますと、成績は誠に良いのであります。

若し空氣が乾燥する地方でありましたならば、水苔を混和した方がよろ

しく、雨量の多い地方でありましたら、山苔を混和した方がよろしいのであります。

これはどういふ譯かと申しますと、水苔は含水量が多く、山苔は水を含むことが少ないのであります。

此の苔類の混合は、挿芽や苗木用養土としてのみ用ひますので、老樹には必要はありません。

一尺以上の大きさの鉢を用ゐます場合は、其の容積の關係からして、鉢内で苔は醱酵しますから、根腐れを生ずるものであります。

たとへ根腐れが生じないとしましても、徒らに芽が長くなつて、老樹としての姿を壞すことになりますから、老樹には決して苔類を使用せず、鹿沼土か、赤土に眞土の微細なのと、川砂少量とを混合して用ゐた方が安全であります。

一體鹿沼土は、前に述べましたやうに、苗木用、若木用として好適なものといへましたが、主として挿芽用の土として理想的であるのであります。

移植

植かへ時　植かへ時は、根が鉢へ廻り切つた時であります。此の時に新らしい土と取り代へてやらねばなりません。老樹や、或は形のすつかりと出來てしまつた樹は、隔年に植かへを行つてやるのであります。

又生育の盛んな若木は、毎年植かへ土を取り代へてやるのであります。

此の植かへ時は、猛夏、酷寒の時以外には何時でもよろしいのであるが

併し最も適當の時期は、春の彼岸前後か、或は花が散つた後であります。

それから今まで地に植ゑてあつたものを、新たに鉢に植ゑやうとする時又は今まで深い鉢に植ゑてあつたのを、淺い鉢に植ゑます時に、太い根を傷つけたり、細い根を切り取つたりすることの無いやうにしなければなりません。若し斯ういふ事が必要がありましたならば、入梅の時期に於て行なふのであります。

植かへの目的　一體何の爲めに植かへをするかと申しますと、第一に養土を新たにすること、第二には樹の容積が大きくなつて來たので、それに要するだけの鉢や容積が必要とする場合であります。故に植かへをいたします時には、舊土は丁寧に箸のやうなもので取り去つていしまはねばなりません。

茲に注意すべきことは、一體に植物の根に人の指や手を直接に觸るゝことは大の禁物であります。故に箸のやうな物で、根を傷つけないやうに、靜かに丁寧に舊土を落すやうにすべきであります。

植込みには、其の樹の老若により、養土を調和して用ゐるのであります が、鉢植でありましたら、鉢の底に大粒の土を入れ、上層には細粉を用ひ毛根の間や隙には、充分に土を充塡してやるやうに、これも矢張り箸の先で、根を傷つけないやうに丁寧にしてやるのがあります。そして兩手の指頭を根に觸れないやうにして土を押しつけて、樹の動かぬやうにするのであります。然し餘りに土を固く壓しますのはいけません。

栽培中の苗木に與へてある鹿沼土は、土地の表面に出て居つても、別にもと〳〵また觀賞樹になつて居りませんからよろしいが、既に鉢に植ゑ

て、盆栽となつて居りますのは、鹿沼土が表面に現はれて居りましては、花の美觀をも損じますから、表面には眞土の細粒を置いてやるのであります。

粘質土　粘質の土壌に依つて養成しました新木を求めました場合には、其の根に附着して居るところの土をつとめて、拂ひ落してしまはねばなりません。若し網狀の細根の中に粘質土が入つて居りましたならば、それはなか〳〵取り難いものでありますから、暫く水中に入れて置いて、其の土を箸で丹念に落し、それから、鉢に植ゑ込むのであります。

若し粘質土が附着した儘で鉢植るいたしますと、多くは根腐れになつて、枯れてしまひます。

植かへを行つた後には、再び根の活動を開始する迄は、日光は差支へありませんが、風の當らないやうにして置くのであります。老樹を植るかへた場合は、兩三日間は物蔭に置いて、日光と風とを防がねばなりません。そして時々葉に水を灌いでやり、根には別に多量に水を灌ぐ必要はありません。

施肥

肥料の種類　これまでは多く、種油粕を以て、專ら盆栽樹の肥料として居つたのでありまして、他の物は一切使用されては居りませんでした。

然し乍ら此の種油粕の使用は最も大切でありまして、油粕の含有して居ります養分が、さつきを栽培するに最も適して居るのであります。

油粕を使用することには、何等の異論はありませんが、然し油粕には、窒素の含有量が多量でありますから、時々は燐酸加里の養分を與へてやることも忘れてはなりません。

それには骨粉を極く微細となして與へるのでありますが、此の骨粉の代用として、少量の重加燐酸を混じて施こしてやつてもよろしいのであります。

肥料の施し方

粉末の肥料を施こします時には、根元と鉢の周圍とを避け中間へ圓く撒いてやるのであります。

斯ういふやうにしてやりますと、撒水の時に、次第に土の中に融け込んで行つて、何時か腐つてさつきの鬚根に吸收されてしまふのであります。

それでありますから、粉末のまゝ施こします時には、さつきが吸收して營養といたします迄には相當の日數が掛る譯であります。

常に粉末の肥料を施すと共に、油粕や其他動物質の肥料を水中に一二ケ月間浸して置いて、充分に腐つたところで、極めて薄くして施こしてやりますと、樹の發育が非常によろしいのであります。これを一週間に二三度づゝ施こしてやる事は、栽培上の一つの秘訣となつて居ります。

施肥の時期

施肥の時期は何時がよいかと申しますと、春は彼岸前後より土用明頃までゝあります、此時には枝葉を盛んに伸ばし、又花をつける時でありますから、誠に好適の時期であります。

さつきは土用明頃より、翌年の花芽の準備をすると共に、今まで伸長しました枝が、太つて行く時でありますから、此の時には燐分肥料と、少量

の加里肥料とを施こしてやりますと、根を丈夫にするのであります。

冬季には肥料を施こしてやる必要は認めないのであります。從來は寒肥などゝ稱へて、酷寒時に人糞や其他の肥料を施こしてやつたものでありますが、一體植物は冬は根の活動を休止する時でありますから、此の時期に施肥しましても、それを吸收する事は出來ないのであります。

若しそれにも關らず、施肥しますと、却つて根を損傷する虞れがあるのであります。

露地植ゑでありましたならば、春日に當り、土壤の含蓄して居る肥料を吸收することが出來ますが、鉢植ゑは多くの場合に於て、植替へを行ひ、土を根から拂ひ落してしまふものであります。

又植替へをしないとしても、毎日の灌水の爲めに洗ひ落してしまひます

から、施肥しましても効力が無い事になります。故に寒肥は何れの點から見ても無効であります。

無駄な肥料を施こすのは、實に愚かしいことであります。

温室栽培

温室内に於て栽培してありますのは、冬季でありましても、成長が止みませんから、施肥の要があります。

それから又、植ゑ替へ後には、凡そ一週間位は施肥しない方がよろしいのであります。

植替へに依つて一度活動を止めた根が、再び活動し初めた時を見計つて薄めた肥料から、徐々に濃厚なものを施肥してやることも忘れてはなりません。

又、盆栽として十年位も經ちましたものには、餘り多くの肥料を施こし

てやる必要はありません、なぜかと申しますと、徒らに枝が伸長して行つて、何時までも若木の容をするやうになりますから、肥料に依つて調節し老樹の姿を失はぬやうにしなければなりません。

苗木や若木は肥料に依つて栽培する事が眼目でありますから、若し肥料を與へることが少ないならば、生育も充分ではありません。

盆栽の鉢は、水抜けを充分に完全にして置かぬと、施肥、灌水共に良い結果にはなりません。

給水

灌水の仕方

盆栽樹でありましたならば、灌水は一日も怠ることは出來ません。灌水は栽培上の大なる仕事の一つでありまして、其の

灌水の仕方の如何によりましては、樹の盛衰にも大なる關係があるのであります。

灌水は樹の四圍の狀態に依りまして、よく加減しなければならぬのであります。枝の繁疎、或は樹姿、樹積、盆容積、養土の種類、日射時間、風の強弱、晴雨の工合等の種々なる狀態や、空氣の乾濕、養土の乾濕の時間等に依つて一定しては居りませんから、一日に何回灌水すべきであるといふことは斷定することが出來ません。

理想的の灌水法は、乾燥し過ぎず、濕潤し過ぎぬ程度の所謂、中庸を得る事であります。

若木や苗木は水抜きを完全にして植ゑ込んで置きますと、一日に何回灌水いたしましても、決して害はありませんが、十年以上も經つた老樹であ

りましたならば、甚だしく乾燥しない限りは、夏日であつても、午前九時頃に一度と、午後日沒前に一度行へば充分であります。

夏季に於て、日中に鉢や盆土が太陽の熱を充分に吸つて、熱して居る時に、俄かに給水を灌ぐといふことは、細根に急激に、温度の變化を與へることになります、樹の生育を害することになります。

斯ういふ譯でありますから、午前九時頃に十分に灌水して置きますと、夕暮頃までは水分は澤山であります。若し白日中に灌水を要する場合には汲んで置いた温水をやるのであります。しかしさつきは乾燥過ぎることを嫌ふ植物でありますから、其邊は注意を怠らぬやうにしなければなりません。

冬季の灌水

冬季には朝日が昇つて、空氣がや、温かくなる頃を見計つて餘り多過ぎない程度に水を灌がねばなりません。

それから夕暮頃の灌水は、夜間に凍る虞れがありますから、乾いたとしても灌水しない方がよろしいのであります。

冬季には日中であつても、濕潤過ぎますことは、決して良い結果を得るものではありませんから、乾燥過ぎぬ程度位に水をやつて置けばよいのであります。

樹齢と灌水

灌水は樹齢に依つても、工夫しなければならぬのであります若木の枝葉を繁茂させ、密生力を盛んならしめやうといたしますには、春と夏とは枝葉の上から、如露か噴霧器を以て、細かい霧を吹きかけるのでありまして、これを一日に數回やつてやります。これは即ち

葉水といひます。

一體さつきは、自然に生育する狀態を見ますと、雲霧が多く、空氣の濕氣の多いところに生ずるものが、最もよく枝葉が繁茂して居ります。これに依つて見ましても、此の樹は温度と濕氣とを好むことが明かであります。ですから二三歳位までの若木を温室内に於て栽培いたしますのは、此の樹性を利用したのであります。

斯ういふ譯でありますから、若し枝葉の繁茂や密生を希望しないならば葉水は絶對に廢し、夕暮方の灌水を減ずるのであります。なぜかと申しますと、植物はすべて、晝間に伸長せずに、夜間に伸長するものであります から、夕暮方の灌水を減じて置きますと、新らしい梢の伸長を抑止する事になります。

灌水に用ゆる水は、雨水であれば誠に結構であります。それにはどうしても貯水の設備が必要になつて來ます。次には永く、汲み置いた水がよろしいのであります。

能く世間には、井戸から汲み立ての水を、直ぐ灌水する人がありますがこれは樹の爲めに非常に悪いのであります。

植ゑかへた時に、老樹は根の吸收作用が極めて不活潑でありますから、枝葉に配水する働きを完全につくすことが出來ません。此時に若し根にのみ多量の水を灌ぎましたならば、何の益の無いばかりで無しに、根の爲めには有害であります。

素人考へとして、植ゑかへた時にこそ、多量の水をやらなければ、樹が枯てしまふやうに思はれますが、若しこんなことをやりましたならば、根

腐れを起して、遂に其の樹を枯らしてしまふことになります。

故に植ゑかへた時には、如露か噴霧器で、度々枝葉に霧を吹きかけてやつて、根からの配水の不足を補なつてやるのであります。そして其の枝葉から、滴り落つる餘り水で、根の方の土の濕氣を保たせればこれで充分であります。

植ゑかへた時には、其の樹齢や、或は植ゑかへた時に、根を切つた其の程度に依つて、一週間位といふものは、根は活動しませんから、活動を初める頃から、灌水の程度を普通に復させるのであります。

樹の置き場所

さつきの性質

一體さつきの性質は、前にも述べましたやうに、日光と、氣温と、濕潤な空氣とを好むものでありますから、天然に生育して居る場所を見ますと、雲霧が下つて居り、日光がよく直射して、風通しがよく、それで居て濕潤な空氣であるといふ、即ち山懐の様なところに、繁殖して居るのであります。

此の樹性から見ましても、夏季に日光の下にあつても、簀などを掛けて日光を遮ぎる必要はありません。斯うして夏季に栽培したものは、酷寒中であつても、屋外に放置して樹が弱ることがないのであります。

温室内で栽培した物や、或は餘りに丁寧に取扱つて、夏季も簀で日光を遮ぎると云ふやうにしたのは、其の置き場所を俄かに變更して、温度や空氣を激變させますと、樹が非常に弱つてしまひます。

枝幹を伸長させる爲めに、温室内に於て栽培しましたものは、冬期はどうしても保温裝置をするか、又は霜除けをしてやりませんと、枯れてしまひます。

然し温室内に於て栽培した物に限らず、一般に冬季は霜除けをしてやることは必要であります。これは春季の發育を充分に促進して誠に成績がよいのであります。

兎に角、冬季に於てはどんな設備でも關ひませんから、凍結しないやうにすることを忘れてはなりません。

日光の調節

挿芽や若苗は、木が至つて力が弱いものでありますから、栽培家は、出來るだけの力をつくして、保護してやらなければなりません。

又日光の調節といふて、これも必要であります。一日の中何時間かを日光に直射させ、其他は簾を以て日光を遮つた場所に置くとか、又は終日陽光を直射もさせます、全部遮りもせずに、所謂半陰裝置にして置くとか、さういふことをも注意しなければならぬのであります。

さつき栽培上の理想的の置き場所は、簾を以て日光の直射を遮ぎつて、所謂半陰裝置にして置くことであります。斯うしておきますと、夏季は日中日光の直射を避けしめます。そして夜間は其の簾を卷いてしまへば、露を與へることになります、夜露はさつきの大好物であります。

又、簾下においても、冬は日中簾を卷いて日光に當らぬ、夜は張つて霜を防ぐことが出來ます。

要するに簾下におきますのは、夏季と冬季とは反對にするのであります

す。

挿芽法

繁殖　植物を栽培しまして、それを殖やして行くことは、誠に樂しみなものであります。

ところで此のさつきは、非常に殖やし方が容易でありまして、他の植物中には、此のさつき程繁殖力の容易なのは多くはありません。

さつきの挿芽は實によく着きます。そして其の手當てさへよければ、千本挿して、千本共活着しますから、二年目には花が咲き、三年目には立派な盆栽に仕立て上げることが出來るのであります。

又三年目には、其の芽を挿して繁殖させて行く事が出來るのであります

から、一本のさつきから二三年にして、三四十本位に繁殖させることが出來るのであります。

ところで、さつきの挿芽法はどんな風にやるか、こゝにそれを説明いたしませう。

先づ挿芽の用土であります。それは前にも養土のところで述べておきましたが、現在までは多く川砂を用ゐるとか、又は淺間砂を用ゐるとかいたしたものでありますが、現今では鹿沼土を用ゐるやうになつて居ります。此の土は群馬縣の至る所に於て採る事が出來る、赤土でありまして、一寸見たところでは小石のやうに見えますが、摘んでもボロ〳〵と粉になつてしまふ程のもので、挿芽養土として最も適當した土であります。

此の鹿沼土七分に、水苔を細かに刻んだのを三分混和します。これを挿

芽用土として用ふるのであります。

此の養土が挿芽用として、誠に理想的のものであります。

芽の挿し方は、右の養土を深さ二寸五分位、横八寸、縦一尺三寸位の木箱を、排水のよいやうに底を作り、之に右の鹿沼土と水苔との混和したのを盛ります。それから豫め用意してある挿穂を一寸から一寸五分位の間隔で、五分位の深さに、しつかりと斜めに挿し込むのであります。それから根元を輕く押して、一箱全部挿し終りましたならば、日光の直射しない所におくのであります。

挿芽の時季　挿芽は何時でもいゝといふ譯ではありません。入梅期中が最も適當であります。

それから挿穂は、古枝では成績がよくありませんから、春新らしく萠え

出した新梢が、入梅頃になりますと、二三寸に伸びますから、此の時に掻き取つて、直ぐに水中に浸し、三四十分程して、其の先の二三葉を殘し、基の葉を取り去つて、前に述べましたやうに、挿芽をするのであります。

こうして三四日間は、日光の直射しない、又風の當らない室内に保護し追々と日光に當てます。十日も經ちますと、白い毛のやうな根が生じます二十日も經過しますと、立派に一本のさつきとして成長して行きます。

挿芽と移植　挿芽を終りましたならば、灌水を怠らず、毎日注意して行つてやらねばなりません。三十日も經過しましたならば、第一回の移植を行つてやるがよろしいのであります。

移植は挿芽に用ゐた養土を用ゐて、箱植とするのが、栽培取扱ひ上都合がよいのであります。

此の移植する場合には、一本づゝ丁寧に、三寸位の間隔をおいて植ゑつけて、土壌の表面には、水苔を一通り覆ふてやればよいのであります。斯うしてやりますと、根の傷むことも無く、水分の蒸發することもないのであります。

全部が活着しました後は、今度は日光に直射してやらねばなりません。灌水も挿芽當時と同じやうに行つてやります。灌水用の水は、汲みおきの水か、雨水を貯めておいたのを、如露か噴霧器で午前九時頃と、午後三時頃の二回に行ひます。

七、八月の酷暑の季節には、簾を以て覆ふてやり、餘り強い光線を遮ぎらねばなりません。

挿芽と肥料

肥料は第一回の移植の後は、充分活着して、一ケ月を經た後に、施してやるがよろしいのであります。

此の肥料は、種油粕を栽培土を覆ふた水苔の上に充分撒布してやります。

斯うしますと、灌水の度毎に、其の肥料が溶けて、栽培土の中に浸み込んで行き、それをさつきの根が吸收して營養といたします。

油粕を施してやります時には、骨粉も幾分混合してやれば、誠によろしいのであります。

世のさつき栽培家が、油粕ばかりを用ゐて肥料として居るやうでありますが、骨粉を混合した方が成績がよいのであります。

それから、外の植物の養土は、其の土の中に肥料を混合してやりますが

さつきは土の中に肥料を混合せずに、上層に撒布してやるのであります。これが即ち外の植物栽培と異なるところであります。

これから又、油粕を水に入れておいて、能く腐つた水を、養土にかけてやつてもよろしいのであります。

これについては前に、肥料のところで詳しく述べてありますから、茲には略します。

挿芽の伸長　入梅頃に挿芽しましたのが、秋の彼岸頃になりますと、相當に伸長して來て、發育もよくなり、成績のよい物であれば、三四寸位になります。

此の時に、一寸五分位の深さの、直徑三寸位の鉢に、一本づゝ植るかへてやるのであります。

又、冬季の栽培の手數を省く爲めに、矢張り木箱に三寸から三寸五分位の間隔をおいて植ゑてもよろしいのであります。

此の時の栽培土も、前に説明したのと、別に變りはありません。

冬季中の施肥は、差支へはありませんが、冷床中に保護してありますものは、翌春になつて、全く降霜のないやうになつてから、冷床外に取り出すことが必要であります。

若し此の時に、餘りに早過ぎて取り出しますと、一度でも霜がかゝりますと、枯死してしまふ事がありますから、注意を要します。

三四月頃からは、一ケ月に二三回づゝ施肥してやり、灌水も一日に二回づゝ行つてやります。

すると蕾を持つて居るものは、漸次に發育して二三寸以上の一年苗であ

つても、大輪の花が咲きます。

然し茲に考へねばならぬのは毎年花を咲かせますと、その後の成長が劣つて來るやうになりますから、蕾のうちに摘み取つてしまつて、花に向ふ精力を樹の成長の方へ廻はしてやつた方がよろしいのであります。

其の後一二年も、斯ういふやうにしてやりますと、樹勢も強くなり、樹姿もよくなり、枝葉も繁茂して、花期には大輪の花が咲くやうになります。

枝の作り方

木振り枝振り

さつきの花を長く觀賞しやうとするには、開花期中に、雨に當てぬことや、又葉水をさけて、強い光線に當てないことであります。

畫間は室内に於て觀賞し、夜間は戸外に出してやるやうにするのであります。花の終つたものから順次に摘み取つてしまつて行きますと、最後の花の終るまで、大輪のものを觀賞することが出來ます。

花期中の手當ては、粗漏には出來ないことを忘れてはなりません。

さつきの枝作りは、普通の盆栽類と同じく、直幹、双幹、懸崖、石付等いろ〳〵に作られるのでありますが、三四年栽培しましたもの丶自然の樹姿をよく見定めて、それ〴〵其の樹姿に從つて作るのであります。此の時には不必要である枝は全部切り取つてしまふのがよろしく、又銅線を蔓火で燒いて、紙を巻いて、その儘丶樹枝に巻きつけ、その銅線を巻いた通りの枝振りにしてやるやうにするのであります。

ですからどんな枝振りでも、自分の思ふまゝに作ればよろしいのであります。

銅線を藁火で焼いたのは、非常に軟かでありますから、盈栽の枝作りには適當なものであります。

樹勢と樹容、

一體樹木は上方の枝が勢ひが強くて、下の方の枝は次第に弱いものであります。

○○○

さつきは一般の樹木とは反對であつて、下方の枝が強く、上方の枝が弱いのであります。三四年の若木は根元近くに盛んに芽を出して行くものであります。

元枝が無くて、樹振りの面白くないのは、上部を切りつめて、思ふやうな形に作ればよいのであります。

樹振り、枝振りを作りますには、春は三四月が最もよろしく、九、十月頃もよろしいのであります。この時であれば、多少木や枝に無理な療治をやりましても、枯らすやうなことはありません。

皐月の變り花の作り方

高等園藝學校卒業 篠原富川

近年の皐月の流行はすばらしいもので皐月咲く六月の季節になると一尺の餘地ある處では可成り無趣味の人でさへ一鉢―二鉢はきつと置いてあります。

こうまで皐月が流行を來たしたと言ふのは、花が美しく花の變化が多く開花期間がながく木の性質が比較的丈夫であるがため誰にも容易く栽ることが出來るからでありませう。ことに最近では『變り花』と申して今迄にない新しい花形や色彩をもつたものを作ることが流行してこれを新花と稱して非常な人氣を呼んで居ます。

例へば華寶、玉振、祥瑞、群鳳、麗峯、萬代、萬歲、恩賞、雲之上、大鵬、群光、廿世紀、天慶、呵古耶姬、東玉、玉織姬、浮島、千歲川、擧の春雨、春雨錦、等一般に好く知られて居る新花でせう。

特に最新花としては、

瑞寶、紫鳳、松之舞、優鳳、光鳳、武藏野、春豊、芳山、佳辰、至寶、寶典、群光、等と言ふのがあります。

面白い新花の値段

新花流行と共に新しく初めて出た變り花は其の價格も驚く程の高價に取引されるものであります、例へばあの群鳳が世に出た當時挿芽が二、三十

圓であつたとをぼへて居ます。

今でも萬歲の挿芽一本一圓位二年生が五圓—十圓、三年生になると二十圓位するでせうし、恩賞、華寶も同じ位、春豊、佳辰、芳山等の最新花は挿芽が五圓—十圓位なのです。

であるから、變り花を作ることは園藝趣味の上から面白いばかりでなく經濟の上から考へても興味の多いものであります、從つて皐月の盛んな地方では一般の素人までが新花を作ることに夢中になつて居る樣な理です。

そこでこの流行兒である『變り花』は何うしたなら作ることが出來るでせう、何うしたなら最も早く出來るでせうか。

變り花の作り方

皐月を一鉢でも作つて居る人は御存知でせうが、皐月の繁殖は挿芽と實生とであります、『變り花』を作る時にも勿論この二つの方法に從つて行くのですが、新花を作る場合には、殆んど實生で行ひます、實際に行ふ前に一通り遺傳の法則を是非知つて置かねばなりません。

遺傳の法則とは

總べて植物の品種の改良には遺傳の法則に依らなければならないのであつて、勿論皐月の『新花』を作らうとする場合にもこのことをくわしく知らなければならないのですが、學理的に申しますと大變にめんどうなむずかしいものになつてしまいますからどうしても知つて置く必要なことだけ一通り申し上げませう、先づ、偶然變異と言ふものがあります、偶然變異

と言ふのは、なんの理もなく突然に親と異つたものが出來ることで白い花から突然黄い花のものが出て其の後は黄が遺傳するのです。

次に交配に依る遺傳の方則はメンデルの法則と言ふものがあります、これは二つの異つた性質の親を交配すると何う遺傳するかと言ふのであつて其の第一代目には優性と言つて性質の強い方の性質が現はれるのであります。

次に其の一代目のものを自花受粉して出來た二代目には優性が三と劣性（弱かつた方の親の性質）が一との割合に分れて現はれ其の優性の三分の一は固定して三分の二は固定しません、第二代目のものが自花受粉して三代目が出來ますが三代目には固定しないもの、分離のしかたは前と同じであります。

赤花（優性）×一代目
白花（劣性）

赤（個定性）
赤（分離性）
赤（同）
白（個定性）

例へば赤と白とを交配すると赤が優性である時は其の子は皆んな赤い花ばかり咲き其の子の種を蒔いて孫になると赤が三、白が一、と言ふ割合に分かれると言ふのです。

一般の遺傳はこの法則に從うのでありますが、この法則に從がはないものもありまして、例へばオシロイ花の白花と赤花とを交配すると桃色の花が出るのであります。

これは兩者に優劣のない場合で第一代目には兩親の中間性のものが現はれて二代目には初めの父に似たものが一つ母に似たものが一つと中間性の

ものが二つと言ふ割合で現はれるのであります、これを中間遺傳と云つて其の雜種を中間雜種と云ふのです。

中間遺傳

◉赤花
×◎桃色
○白花

◉赤色花（個定性）
◎桃色花（分離性）
○白色花（個定性）
◎桃色花（同）

其の外、配偶子の相牽引とか相反撥とか、假裝とか、又は相關作用とか色々なことがあつて非常に複雜な遺傳の理論がありますが、この位にして次に皐月に就いて實際の作り方にうつりませう。

枝變りで新花を作る方法

『枝變り』と言ふのは偶然變異の一種で突然に一つの枝から今迄と異つた花が咲くのであります、これを其の部分だけ取つて挿木すれば『新花』が出來る理です、群鳳と言ふ種類はやはり枝變りで出來たものであります、この群鳳から鴇色の花が出るのも一種の枝變りと言ふことが出來ませう、この鴇色の花が咲くところの芽を挿して出來たものが鴇群鳳又は優鳳言のが其れであります。

皐月は外の植木に比して枝變りは起り易い性質であるから注意して居れば偶然に面白い枝變りを見つける場合がありますから注意して枝變りを發見したならばこれを挿木で繁殖すれば新花が出來る理であります。

枝變りと云つても松波の樣に純白の花が出るものがあります、これはあまり面白くありません、これが澤山出ると松波の品位が惡くなりますから

出次第其の枝ごと取りすてる様にするのです。

今日迄出た枝變りで有名なのは前述の群鳳の外に護美錦の枝變りで『陽明』と云ふ雪白の白地に紅絞りの大輪があり、又日光の輪王寺と云ふ寺の庭にあつた旭鶴の枝變りで『輪王鶴』と名付け、花瓣が厚く大輪で白色に紅色の筋入本藤に紅色の堅筋の絞り咲きが出て頗る面白いものがあり、又晃山と云ふ品種の枝變りに花色は白色で晃山に似た花形で紅色の筋入の變り花が出て居ます、これを『晃媛』と名づけました。

此等の枝變りは偶然變異の法則通りたゞちに固定する性質のものでありますから一旦出來た以後は挿木に依つて繁殖して行けば花がもどつたり又は變つたりする様なことはないのであります。

普通の實生て作る法

實生と言ふて居るのは皐月の或る種類の實をとつて蒔いて苗を作ることを言ふので、なぜこの實生することで變り花が出るかと言ふと一般に園藝植物は雜種性のものが多いから其の種子る蒔くときは性質の分離が起つて變つたものが澤山出來ると云ふ故であります、たとへ純粹のものであつても偶然變異に依つて突然思ひ掛けない、變つたものが出ることがあるのです、勿論この偶然變異と云ふものは常に出るとは限りません。

又實際に於ても皐月はすでに異つた性質のものが交雜して出來て居るものが多いのでありますから、かまはず此れに結んだ實を採つて蒔くなら必ず其の親と異つて居る性質のものが澤山出て來るのでせう、其等の中から

自分の目的にかなうものを選び出せば好いのであります。

其の際、思はしいものがなかつた時は目的に近いものを選んで成育し其の種子をとつて蒔いて見て調らべる様にすれば好いのです。

この方法は最も簡單であるから一般の植木屋に多く行はれて居ます。

今日に至る迄植木屋でこの實生の方法から生れでた新花にも隨分好いものが澤山あるが中でも次の様なものは有名なものでせう。

『高砂』の實生から麗峯、豊明、漣、紫海波、貴寶、思川錦、七賢人、曉雲、國光、國の司、等が出て居ます。

『博多日』の實生で銀婚、國の惠、大楠公。

『十六夜』の實生からは萬歳、武藏野。

『旭觀』の實生で瑞鳳、賀春、天上、浦島。

『紫雲月』の實生に依つては青玉。

『群寶』の實生から群馬縣では白雲、群陽子とかゞ出て居ます。

この様に實生でも優秀な品種が出來るのであります。

皐月の種子は八月の末から九月―十月上旬迄に熟すのであるからこれを採つてすぐ播けば好いので播種の方法は後でくはしく述べることにします。

交配で新花を作る方法

交配とは異つた二つの花をカケ合せることで其の種子を蒔くことに依つて兩親の雜種を得るのであります、この方法が一番進歩した作り方で、自分の欲するところのものを得るためにはこの人工的の交配に依つて人工雜

種を作らなければなりません。

交配は一寸めんどうではありますが、其れだけ又苦心するところに云ひしれぬ樂しみがあります。

前の普通實生法では何んなものが出て來るか見當がつかないのであるが交配實生は最初から自分で欲する花形を假定して、之れに適合する樣に努力するのであります。

最近にこの交配實生に依つて生れた新花の例を上げて見ますと。

（×は交配の標）

旭光錦×十六夜――祥端が出來ました。

旭　鶴×松　波――浮　島

護美錦×高　砂――至　寶

同×同――光　鳳

同×同――大　典

同×高砂――萬　壽

同×同――龜　城

護美錦×旭光錦――宇陽の光

同×同――六合の光

同×同――八千代

同×同――大　典

護美錦×石山――キングの光

同×同――榮　光

同×同――北極の光

十六夜×金華山――福祿壽
十六夜×千歳川――武藏野
群鳳×玉織――春豊
金華山×群鳳――觀艸
玉織×恩賞――光鳳
麗峯×恩賜――麗齡
雲の上×今様錦――芳典
旭光錦×雲の上――寶聲
旭光錦×雲の上――瑞辰
玉織姫×高砂――佳雲
護美錦×高砂――白

群鳳×高砂――華賞
群鳳×十六夜――立花
群鳳×高砂――旭昇
群鳳×靈峯――春風

この外澤山の好い新花が交配に依つて出來て居ました。

交配する親木の選び方

此の人工交配種を作るには豫じめ一定の目的、理想を立てゝ其の出來るものを豫想して行ふのですから其の目的に適ふものを選ぶのです。

例へば甲と云ふ種類は花が波打咲で大輪であるけれど眞白で木が弱く面白くないから此れに紫の絞りを出して見たいとか云ふ場合に他に紫色の

性質の丈夫の花を選んでこれを甲に交配させるのであります、而かも其の親はなるべく好い系統のものを選ぶ様にするのです。

次にこの甲乙の何れを母とするかと云ふことを考へなければならないのですが遺傳の法則にある様に其の一代目の子には優性の方が多分に現はれるのであると云ふ説に従つて其の場合大事な事項を優性なものとしなければならないでせう、又、ものに依つては雄が雌よりも優性である時も雌が雄よりも優性である時もあるから甲に乙を交けて見、又一方乙に甲を交けて見る必要があります。

其の他なるべく開花期が同一のものを選ばねばなりません開花期の異つたものを交配するには一方を温室に入れて促成したり一方を寒いところに於て開花期を一緒にするのです。

交配の仕方

さて交配を行ふとする時には両親とも明日咲く花蕾を選んで好く切れるナイフで其の母となる蕾を縦に花瓣を裂いて雄蘂を小さい鋏みで皆切りとつてしまふのです、これは其の花の花粉が雌蘂に付かない様にする爲めであります、雄蘂を取り去つたならばバラビン紙で造つた縦二寸五分横二寸位の袋で包んで糸で結んで置きます。

一方父となる花即ち花粉を必要とする方は矢張り其の前日の中に袋で包んで置きます。こうして翌日になつたらソット袋取去つて交配するのです交配は午後にするのが成績が好い様で、まづ両方とも袋を取り去つて一方の雄蘂をピンセットで取つて他方雌蘂の柱頭に花粉を塗り付けるのであり